

治安に関する県民アンケート

調 査 結 果

平成29年6月



大 分 県 警 察

はじめに

大分県民の皆様には、日頃から警察行政の各般にわたり多大なご理解とご協力を賜り、心から感謝を申し上げます。

これまで県警察では、運営方針である「県民とともに歩む力強い警察」に基づいて、「日本一安全な大分」の実現に向け、犯罪の徹底検挙はもとより、県民と協働した地域防犯ボランティア団体の活動促進や防犯カメラの設置促進等「犯罪の起きにくい社会づくり」に取り組んできたところです。

県民の皆様とともに犯罪抑止のための様々な取組を推進した結果、昨年の刑法犯認知件数を、平成16年以降、13年連続して減少させることができました。

しかしながら、社会的反響の大きい凶悪事件の発生に加え、特殊詐欺の被害は依然として高い水準で発生しており、高齢者が関係する交通死亡事故が後を絶たないほか、国際テロ情勢も厳しさを増すなど、警察を取り巻く環境は依然として厳しい情勢となっております。

このような情勢の下、県民の皆様とともに歩みながら大分県の安全・安心を確保していくためには、広く県民の皆様に治安や警察活動に関するご意見をお聞きし、それを今後の取組に活かしていくことが重要であると考え、今回「治安に関する県民アンケート」を実施いたしました。

県警察としては、今回のアンケートで得られた皆様の貴重なご意見を今後の取組に生かし、県民の目線に立って各種施策に対する不断の見直しを行い、より多くの方に安全・安心な大分を実感していただけるよう、「犯罪の起きにくい社会づくり」に取り組んでいく所存でございます。

おわりに、このアンケートにご協力いただきました県民の皆様に厚く御礼申し上げます。

大分県警察本部長 松坂規生

平成29年 治安に関する県民アンケートの結果(概要)

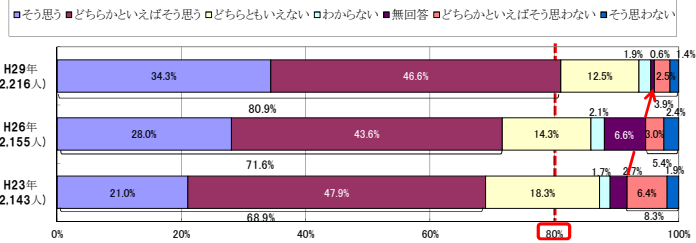
調査方法等

- 調査時期 平成29年2月6日～同年2月23日の間
- 調査対象 運転免許センター来庁者
- 調査方法 業者委託の上、運転免許センター来庁者に対してアンケート用紙を配布し、無記名記載後回収
- 設問数 16問(サブクエスチョン含めると20問)
- 総回答者 2,216人
(男性1,093人、女性1,123人、性別無回答0人)
(20歳未満260人、20歳代354人、30歳代326人、40歳代361人、50歳代334人、60歳代369人、70歳以上211人、年齢無回答1人)

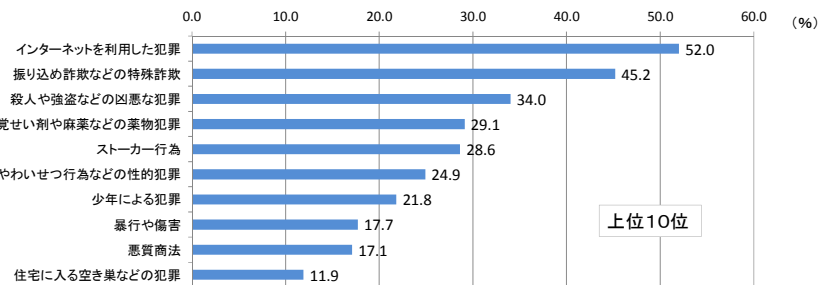
体感治安

現在の大大分県が、治安がよく、安全で安心して暮らせる県だと思うか？

- 約8割が「(どちらかといえば)安心して暮らせる」
- 「(どちらかといえば)安心して暮らせない」の割合は、6年前から2分の1以下に減少



3年前と比べて増えたと感じる犯罪は？(複数回答)



警察に期待すること

交番等に強化してほしい活動

- ① 防犯のためのパトロール (64.9%)
- ② 通報に対する素早い対応 (49.2%)
- ③ 身近に発生した犯罪の検挙 (37.9%)
- ④ 交番等への警察官常駐 (28.9%)
- ⑤ 困りごとや要望への対応 (25.5%)

大規模震災など災害発生時

- ① 安全な場所への避難・誘導 (72.2%)
- ② 被災情報の収集・広報 (55.7%)
- ③ 犯罪の取締り (54.4%)
- ④ 被災者の捜索・救助 (48.8%)
- ⑤ 交通整理・交通規制 (48.0%)

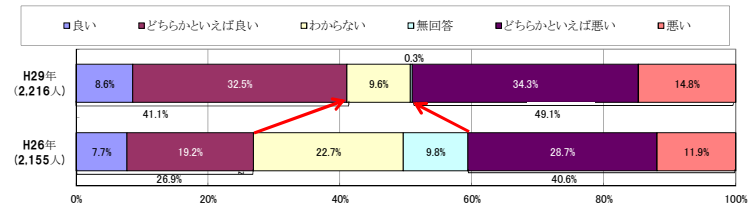
テロ防止のための活動

- ① テロ組織に関する情報収集 (51.9%)
- ② テロリストを入国させないための対策 (50.2%)
- ③ テロリストの摘発 (41.9%)
- ④ 爆発物、毒物等の管理・販売の指導 (38.1%)
- ⑤ テロ防止に役立つ情報発信 (37.9%)

交通マナー

大大分県内の交通マナーについてどう感じるか？

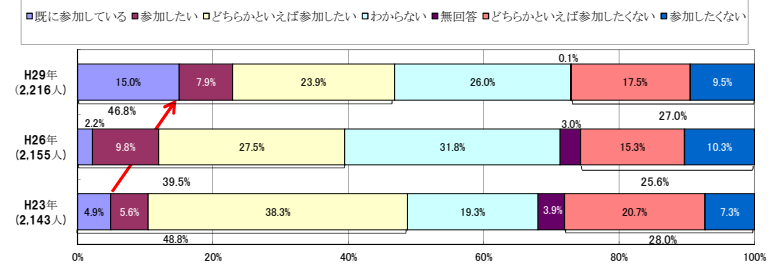
- 「(どちらかといえば)良い」の割合(41.1%)よりも、「(どちらかといえば)悪い」の割合(49.1%)の方が大きい
- 「(どちらかといえば)良い」、「(どちらかといえば)悪い」ともに、3年前から増加



安全安心まちづくり

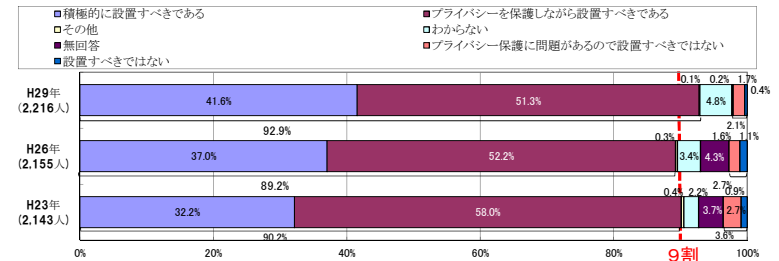
防犯パトロールなど自主的な防犯活動に参加したいか？

- 「既に参加している」の割合は、6年前から3倍に増加
- 「(どちらかといえば)参加したくない」の割合は前回より微増



防犯カメラに対する意識は？

- 約9割が「(プライバシーを保護しながら)設置すべき」



調査概要

1 調査目的

治安に関する県民の意識を調査・分析し、今後の各種警察活動の効果的な推進の基礎資料とすることを目的とする。

2 調査時期

平成29年2月6日～同年2月23日の間

3 調査対象及び調査方法

業者委託の上、運転免許センターへの来庁者に対してアンケート用紙を配布し、無記名記載後回収

4 調査項目

大項目	問番号	問の内容	備考
体感治安	問1	大分県は安全・安心な県と思うか	
	問1-1	治安が悪い理由は何か	新規
	問2	3年前と比べて増えたと感じる犯罪は	
治安に関する情報提供	問3	治安や犯罪に関する情報入手方法は	
	問4	治安や犯罪に関する情報提供は十分か	
防犯活動への参加等	問5	地域や職場の防犯団体を知っているか	新規
	問6	各種の防犯活動(子供見守り等)へ参加したいと思うか	
	問6-1	防犯活動に対する支援を行う必要のあるものは何か	
防犯カメラ	問7	街頭防犯カメラについてどう思うか	
	問7-1	どこに設置してほしいか	
子供の安全対策	問8	子供を犯罪から守るために力を入れるべき対策は何か	
少年非行対策	問9	少年非行対策で何に取り組むべきか	
振り込め詐欺対策	問10	近い将来、自身や家族等が特殊詐欺被害に遭うと思うか	新規
交番・駐在所の活動	問11	交番や駐在所にどのような活動を強化してほしいか	
大分県の交通マナー	問12	県内の交通マナーについてどう感じているか	
	問12-1	交通マナーが悪い理由は何か	
交通事故防止対策	問13	交通事故防止で力を入れるべき活動は何か	
	問14	どのようなタイプの反射材であれば使いたいか	新規
警察に対する要望	問15	大規模災害の発生時に警察に何を期待するか	
	問16	テロ防止のため警察に期待すること	新規

※ 備考の「新規」は、過去3回(H20,H23,H26)の設問になかったもの。

5 実施結果(回答者の属性)

総回答者数 2,216人

〔性別〕

男性	1,093	49.3%
女性	1,123	50.7%
無回答	0	0.0%
合計	2,216	

〔年代別〕

20歳未満	260	11.7%
20歳代	354	16.0%
30歳代	326	14.7%
40歳代	361	16.3%
50歳代	334	15.1%
60歳代	369	16.7%
70歳以上	211	9.5%
無回答	1	0.0%
合計	2,216	

〔住居地別〕

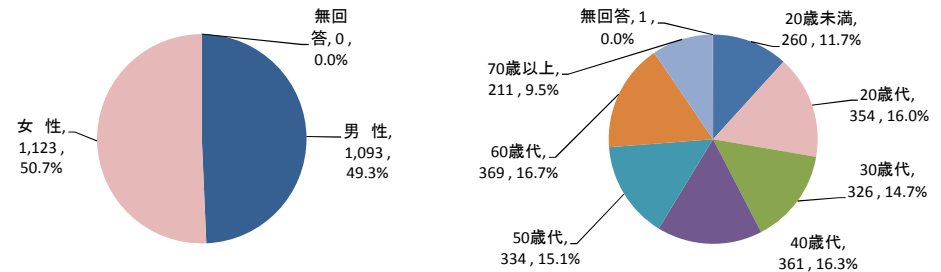
大分市	1,265	57.1%
由布市	63	2.8%
別府市	201	9.1%
日出町	29	1.3%
杵築市	36	1.6%
国東町	40	1.8%
姫島村	1	0.0%
豊後高田市	24	1.1%
宇佐市	61	2.8%
中津市	76	3.4%
九重町	7	0.3%
玖珠町	16	0.7%
日田市	34	1.5%
竹田市	25	1.1%
豊後大野市	71	3.2%
佐伯市	100	4.5%
津久見市	47	2.1%
臼杵市	101	4.6%
無回答	19	0.9%
合計	2,216	

〔職業別〕

会社(役員)	676	30.5%
公務員・団体職員	137	6.2%
自営業	161	7.3%
農林水産業	27	1.2%
アルバイト・パート・派遣	335	15.1%
学生	340	15.3%
家事専業	241	10.9%
無職	259	11.7%
その他	37	1.7%
無回答	3	0.1%
合計	2,216	

〔世帯別〕

ひとり暮らし	293	13.2%
夫婦のみ	544	24.5%
親と子(2世代同居)	1,150	51.9%
親と子と孫	196	8.8%
その他	25	1.1%
無回答	8	0.4%
合計	2,216	



6 その他参考事項

- 調査結果は、回答数を回答者数で除して、%表示している。
- 結果中、「H23年」とは、大分県警察が平成23年8-9月に実施した「治安に関する県民アンケート」をいう。

【H23.8-9実施 治安に関する県民アンケート概要】

- 実施時期: H23.8.24～9.11
- 実施方法: 県下警察署及び運転免許センター来庁者2,143人にアンケート配布し、無記名記載後回収

- 結果中、「H26年」とは、大分県警察が平成26年2-3月に実施した「治安に関する県民アンケート」をいう。

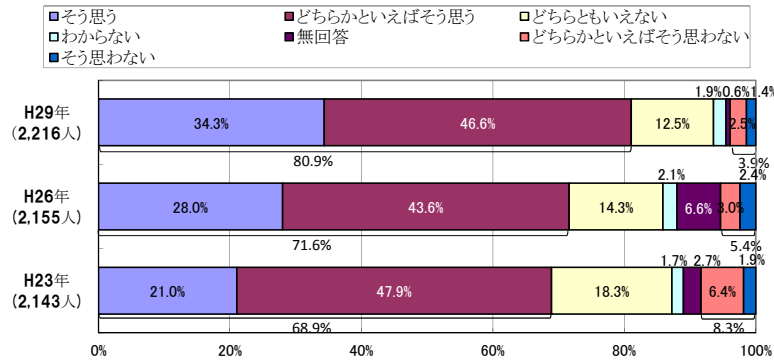
【H26.2-3実施 治安に関する県民アンケート概要】

- 実施時期: H26.2.21～3.11
- 実施方法: 業者委託の上、運転免許センター来庁者2,155人にアンケート配布し、無記名記載後回収

- 回答者の住居地別では、姫島村1人、九重町7人であったことから、結果中、国東市及び姫島村は「国東市・姫島村」として、玖珠町及び九重町は「玖珠町・九重町」として、それぞれ関係市町村に係る数値を合計して算出した。

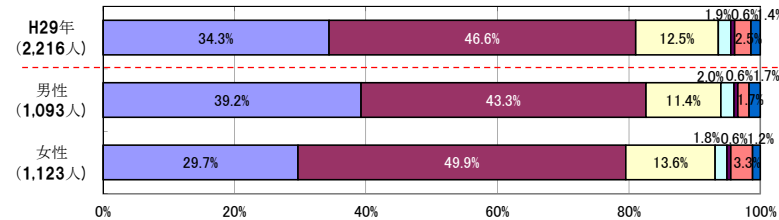
問1 あなたは、現在の**大分県**が、治安がよく、安全で安心して暮らせる県だと思いますか。

【全体(過去の調査との比較)】

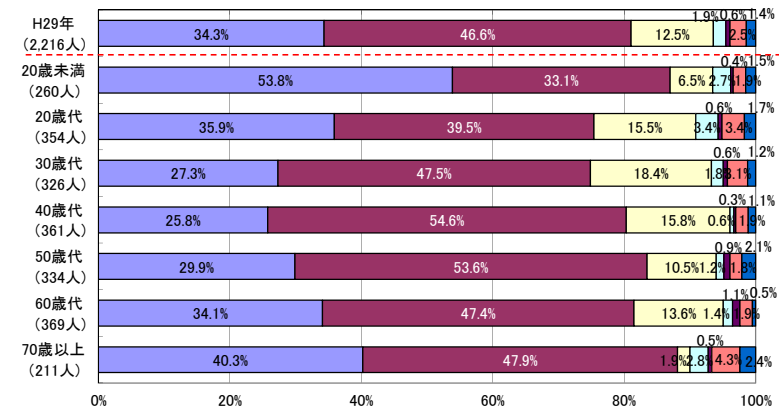


- 約8割の人が「(どちらかといえば)安心して暮らせる」と回答しています。
- 「(どちらかといえば)安心して暮らせない」と感じる割合は、6年前から2分の1以下に減少しています。
- 「治安がよい」の割合は、男性の方が大きくなっています。
- 20歳未満では半数以上の人々が「治安がよい」と思っており、一方、30~50歳代では3割以下となっています。

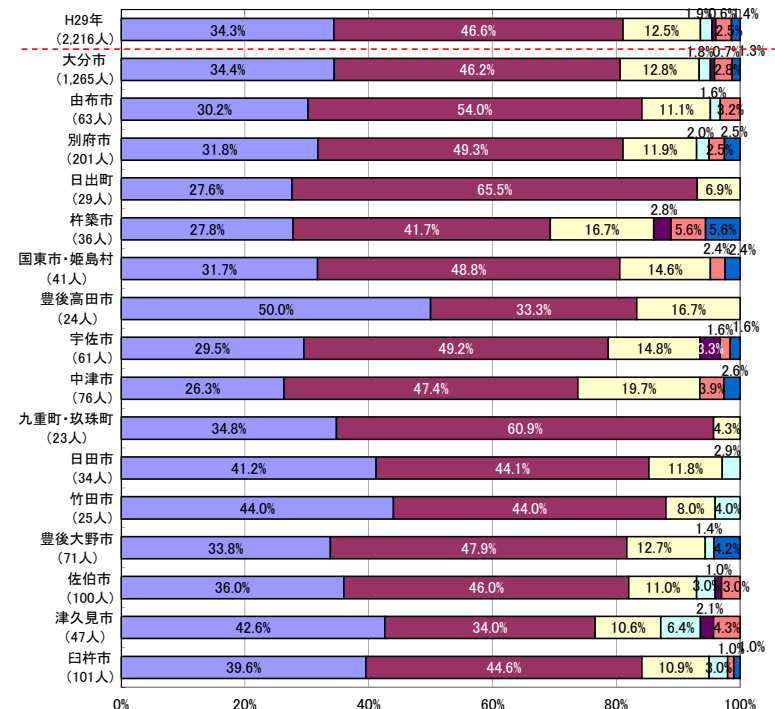
【男女別】



【年代別】



【住居地別】



問1-1

問1で「どちらかといえばそう思わない」又は「そう思わない」と回答した方にお聞きます。なぜ、そのように思いますか。(複数回答可)

※ 下表中、各順位右欄の数値の単位は、「%」です。

		1位	2位	3位	4位	5位				
全体 (88人)	インターネットを利用した犯罪など新たな手口の犯罪が増えたから	40.9	大分県内でも新聞・テレビ等で事件の報道等をよく見聞きするから	38.6	全国的に凶悪事件(殺人や強盗など)が報道され、身近でも発生する可能性があるから	36.4	交番での警戒やパトロールをする制服警察官が少ないから	31.8	青少年の教育が不十分だから	27.3
		6位	7位	8位	9位	10位				
	現実に身近で犯罪が発生しているから	26.1	警察の取締りや捜査が不十分だから	26.1	地域社会の連帯が希薄になったから	23.9	住民の規範意識が低下したから	22.7	外国人による犯罪が増えたから	20.5
		11位	12位	13位	14位	15位				
	自分や身近な人が犯罪の被害に遭っているから	13.6	その他	13.6	暴力団の存在に不安を覚えるから	11.4	景気が悪くなったから	10.2	無回答	2.3
	16位									
	わからない	1.1								

		1位	2位	3位	4位	5位					
男女別	男性 (38人)	青少年の教育が不十分だから	36.8	警察の取締りや捜査が不十分だから	36.8	住民の規範意識が低下したから	34.2	大分県内でも新聞・テレビ等で事件の報道等をよく見聞きするから	34.2	インターネットを利用した犯罪など新たな手口の犯罪が増えたから	31.6
	女性 (50人)	インターネットを利用した犯罪など新たな手口の犯罪が増えたから	48.0	全国的に凶悪事件(殺人や強盗など)が報道され、身近でも発生する可能性があるから	44.0	大分県内でも新聞・テレビ等で事件の報道等をよく見聞きするから	42.0	交番での警戒やパトロールをする制服警察官が少ないから	34.0	現実に身近で犯罪が発生しているから	28.0

年代別	20歳未満 (9人)	大分県内でも新聞・テレビ等で事件の報道等をよく見聞きするから	44.4	インターネットを利用した犯罪など新たな手口の犯罪が増えたから	44.4	全国的に凶悪事件(殺人や強盗など)が報道され、身近でも発生する可能性があるから	33.3	青少年の教育が不十分だから	33.3	自分や身近な人が犯罪の被害に遭っているから	33.3
	20歳代 (18人)	大分県内でも新聞・テレビ等で事件の報道等をよく見聞きするから	38.9	青少年の教育が不十分だから	38.9	インターネットを利用した犯罪など新たな手口の犯罪が増えたから	38.9	警察の取締りや捜査が不十分だから	38.9	全国的に凶悪事件(殺人や強盗など)が報道され、身近でも発生する可能性があるから	33.3
	30歳代 (14人)	交番での警戒やパトロールをする制服警察官が少ないから	42.9	全国的に凶悪事件(殺人や強盗など)が報道され、身近でも発生する可能性があるから	35.7	外国人による犯罪が増えたから	35.7	インターネットを利用した犯罪など新たな手口の犯罪が増えたから	35.7	住民の規範意識が低下したから	28.6
	40歳代 (11人)	全国的に凶悪事件(殺人や強盗など)が報道され、身近でも発生する可能性があるから	36.4	警察の取締りや捜査が不十分だから	36.4	住民の規範意識が低下したから	27.3	暴力団の存在に不安を覚えるから	27.3	インターネットを利用した犯罪など新たな手口の犯罪が増えたから	27.3
	50歳代 (13人)	大分県内でも新聞・テレビ等で事件の報道等をよく見聞きするから	61.5	インターネットを利用した犯罪など新たな手口の犯罪が増えたから	53.8	全国的に凶悪事件(殺人や強盗など)が報道され、身近でも発生する可能性があるから	46.2	現実に身近で犯罪が発生しているから	38.5	交番での警戒やパトロールをする制服警察官が少ないから	38.5
	60歳代 (9人)	地域社会の連帯が希薄になったから	44.4	全国的に凶悪事件(殺人や強盗など)が報道され、身近でも発生する可能性があるから	44.4	大分県内でも新聞・テレビ等で事件の報道等をよく見聞きするから	44.4	インターネットを利用した犯罪など新たな手口の犯罪が増えたから	44.4	交番での警戒やパトロールをする制服警察官が少ないから	33.3
	70歳以上 (14人)	地域社会の連帯が希薄になったから	57.1	青少年の教育が不十分だから	42.9	外国人による犯罪が増えたから	42.9	インターネットを利用した犯罪など新たな手口の犯罪が増えたから	42.9	現実に身近で犯罪が発生しているから	42.9

世帯別	ひとり暮らし (17人)	大分県内でも新聞・テレビ等で事件の報道等をよく見聞きするから	35.3	現実に身近で犯罪が発生しているから	35.3	全国的に凶悪事件(殺人や強盗など)が報道され、身近でも発生する可能性があるから	29.4	インターネットを利用した犯罪など新たな手口の犯罪が増えたから	29.4	自分や身近な人が犯罪の被害に遭っているから	29.4
	夫婦のみ (28人)	大分県内でも新聞・テレビ等で事件の報道等をよく見聞きするから	46.4	インターネットを利用した犯罪など新たな手口の犯罪が増えたから	46.4	全国的に凶悪事件(殺人や強盗など)が報道され、身近でも発生する可能性があるから	42.9	交番での警戒やパトロールをする制服警察官が少ないから	42.9	地域社会の連帯が希薄になったから	35.7
	親と子 (40人)	インターネットを利用した犯罪など新たな手口の犯罪が増えたから	40.0	全国的に凶悪事件(殺人や強盗など)が報道され、身近でも発生する可能性があるから	37.5	青少年の教育が不十分だから	37.5	大分県内でも新聞・テレビ等で事件の報道等をよく見聞きするから	35.0	交番での警戒やパトロールをする制服警察官が少ないから	35.0
	親と子と孫 (2人)	地域社会の連帯が希薄になったから	50.0	住民の規範意識が低下したから	50.0	大分県内でも新聞・テレビ等で事件の報道等をよく見聞きするから	50.0	インターネットを利用した犯罪など新たな手口の犯罪が増えたから	50.0	該当なし	



【この設問は平成29年新規設問】

- 「インターネットを利用した犯罪などの新たな手口の犯罪が増えたから」が4割を超え、全国や県内の事件報道等を抑えて第1位となっています。
- 全体の上位3位が、女性でも上位3位を占めていますが、男性ではいずれも3位以内に入っていないといった差が見られました。
- 60歳以上では、全体第8位の「地域社会の連帯が希薄になったから」が第1位となっています。

問2 あなたが、3年前と比べて増えたと感じる犯罪がありますか。(複数回答可)

※ 下表中、各順位右欄の数値の単位は、「%」です。

		1位	2位	3位	4位	5位
全体 (2,216人)		インターネットを利用した犯罪 52.0	振り込め詐欺などの特殊詐欺 45.2	殺人や強盗などの凶悪な犯罪 34.0	覚せい剤や麻薬などの薬物犯罪 29.1	スティーカー行為 28.6
		痴漢やわいせつ行為などの性的犯罪 24.9	少年による犯罪 21.8	暴行や傷害 17.7	悪質商法 17.1	住宅に入る空き巣などの犯罪 11.9
		外国人による犯罪 10.6	自転車やバイクを盗む犯罪 10.1	万引き 9.5	恐喝や脅迫 6.4	自動車を盗む犯罪 4.6
		自動車などの車内の物を盗む犯罪 4.4	その他 3.7	暴力団が関与した犯罪 2.7	無回答 1.4	拳銃を使用した犯罪 0.8

		1位	2位	3位	4位	5位
男女別	男性 (1,093人)	インターネットを利用した犯罪 49.7	振り込め詐欺などの特殊詐欺 42.4	殺人や強盗などの凶悪な犯罪 27.3	スティーカー行為 24.1	覚せい剤や麻薬などの薬物犯罪 22.7
	女性 (1,123人)	インターネットを利用した犯罪 54.3	振り込め詐欺などの特殊詐欺 48.0	殺人や強盗などの凶悪な犯罪 40.5	覚せい剤や麻薬などの薬物犯罪 35.4	スティーカー行為 33.0

		1位	2位	3位	4位	5位
年代別	20歳未満 (260人)	インターネットを利用した犯罪 50.4	殺人や強盗などの凶悪な犯罪 22.3	覚せい剤や麻薬などの薬物犯罪 22.3	痴漢やわいせつ行為などの性的犯罪 20.0	自転車やバイクを盗む犯罪 18.8
	20歳代 (354人)	インターネットを利用した犯罪 44.6	覚せい剤や麻薬などの薬物犯罪 28.0	振り込め詐欺などの特殊詐欺 26.8	殺人や強盗などの凶悪な犯罪 24.9	痴漢やわいせつ行為などの性的犯罪 21.5
	30歳代 (326人)	インターネットを利用した犯罪 52.1	振り込め詐欺などの特殊詐欺 48.2	覚せい剤や麻薬などの薬物犯罪 35.3	殺人や強盗などの凶悪な犯罪 31.3	少年による犯罪 28.5
	40歳代 (361人)	インターネットを利用した犯罪 59.3	振り込め詐欺などの特殊詐欺 49.3	殺人や強盗などの凶悪な犯罪 39.3	スティーカー行為 36.3	覚せい剤や麻薬などの薬物犯罪 32.7
	50歳代 (334人)	インターネットを利用した犯罪 59.9	振り込め詐欺などの特殊詐欺 54.8	殺人や強盗などの凶悪な犯罪 39.2	スティーカー行為 37.1	覚せい剤や麻薬などの薬物犯罪 31.7
	60歳代 (369人)	振り込め詐欺などの特殊詐欺 58.0	インターネットを利用した犯罪 52.6	殺人や強盗などの凶悪な犯罪 39.8	スティーカー行為 35.2	覚せい剤や麻薬などの薬物犯罪 28.5
	70歳以上 (211人)	振り込め詐欺などの特殊詐欺 60.7	インターネットを利用した犯罪 40.8	殺人や強盗などの凶悪な犯罪 40.3	痴漢やわいせつ行為などの性的犯罪 26.5	スティーカー行為 25.6

		1位	2位	3位	4位	5位
世帯別	ひとり暮らし (293人)	インターネットを利用した犯罪 44.4	振り込め詐欺などの特殊詐欺 30.4	殺人や強盗などの凶悪な犯罪 26.6	覚せい剤や麻薬などの薬物犯罪 25.6	痴漢やわいせつ行為などの性的犯罪 21.5
	夫婦のみ (544人)	振り込め詐欺などの特殊詐欺 56.6	インターネットを利用した犯罪 51.5	殺人や強盗などの凶悪な犯罪 40.3	スティーカー行為 29.8	痴漢やわいせつ行為などの性的犯罪 28.1
	親と子 (1,150人)	インターネットを利用した犯罪 53.0	振り込め詐欺などの特殊詐欺 44.4	殺人や強盗などの凶悪な犯罪 34.0	覚せい剤や麻薬などの薬物犯罪 30.9	スティーカー行為 29.7
	親と子と孫 (196人)	インターネットを利用した犯罪 58.7	振り込め詐欺などの特殊詐欺 40.8	スティーカー行為 29.1	覚せい剤や麻薬などの薬物犯罪 29.1	殺人や強盗などの凶悪な犯罪 27.6



- 約半数が「インターネットを利用した犯罪」と「振り込め詐欺などの特殊詐欺」が増えたと感じています。
- 前回(平成26年)第2位の「殺人や強盗等の凶悪な犯罪」は、44.6%から34.0%に10.6ポイント減少して第3位となっています。
- 前回(平成26年)第9位の「覚せい剤や麻薬などの薬物犯罪」は、13.6ポイント増加して第4位となっています。

問3 あなたは、普段どのような方法で治安や犯罪に関する情報を入手していますか。(複数回答可)

※ 下表中、各順位右欄の数値の単位は、「%」です。

全体 (2,216人)	1位		2位		3位		4位		5位	
	テレビ・ラジオ	86.6	インターネット上のニュースサイト(警察以外からの情報)	52.5	新聞	51.1	家族や友人との会話(電話を含む)	28.5	フェイスブックやツイッターなどのSNS	14.7
	6位		7位		8位		9位		10位	
	自治体や自治会の広報(回覧板・市報など)	13.3	会社や学校からの連絡	11.4	雑誌	7.2	電子メール(「まもめる」配信など)	4.7	防犯無線	1.6
11位		12位		13位						
県警・警察庁のホームページ	1.2	その他	0.4	無回答	0.2					

男女別	1位		2位		3位		4位		5位	
	男性 (1,093人)	テレビ・ラジオ	84.2	新聞	54.7	インターネット上のニュースサイト(警察以外からの情報)	53.3	家族や友人との会話(電話を含む)	19.3	フェイスブックやツイッターなどのSNS
女性 (1,123人)	テレビ・ラジオ	89.0	インターネット上のニュースサイト(警察以外からの情報)	51.6	新聞	47.6	家族や友人との会話(電話を含む)	37.5	自治体や自治会の広報(回覧板・市報など)	16.0

年代別	1位		2位		3位		4位		5位		
	20歳未満 (260人)	テレビ・ラジオ	83.5	インターネット上のニュースサイト(警察以外からの情報)	60.8	フェイスブックやツイッターなどのSNS	33.5	家族や友人との会話(電話を含む)	24.2	新聞	21.2
	20歳代 (354人)	テレビ・ラジオ	83.6	インターネット上のニュースサイト(警察以外からの情報)	67.5	フェイスブックやツイッターなどのSNS	32.2	新聞	29.7	家族や友人との会話(電話を含む)	25.7
	30歳代 (326人)	テレビ・ラジオ	83.4	インターネット上のニュースサイト(警察以外からの情報)	69.6	新聞	31.3	家族や友人との会話(電話を含む)	24.2	フェイスブックやツイッターなどのSNS	17.5
	40歳代 (361人)	テレビ・ラジオ	83.7	インターネット上のニュースサイト(警察以外からの情報)	63.4	新聞	51.5	家族や友人との会話(電話を含む)	31.0	会社や学校からの連絡	18.3
	50歳代 (334人)	テレビ・ラジオ	88.9	新聞	67.7	インターネット上のニュースサイト(警察以外からの情報)	48.5	家族や友人との会話(電話を含む)	34.4	自治体や自治会の広報(回覧板・市報など)	16.8
	60歳代 (369人)	テレビ・ラジオ	91.3	新聞	77.8	インターネット上のニュースサイト(警察以外からの情報)	31.7	家族や友人との会話(電話を含む)	31.4	自治体や自治会の広報(回覧板・市報など)	25.2
	70歳以上 (211人)	テレビ・ラジオ	93.4	新聞	81.5	自治体や自治会の広報(回覧板・市報など)	31.8	家族や友人との会話(電話を含む)	26.5	インターネット上のニュースサイト(警察以外からの情報)	14.7

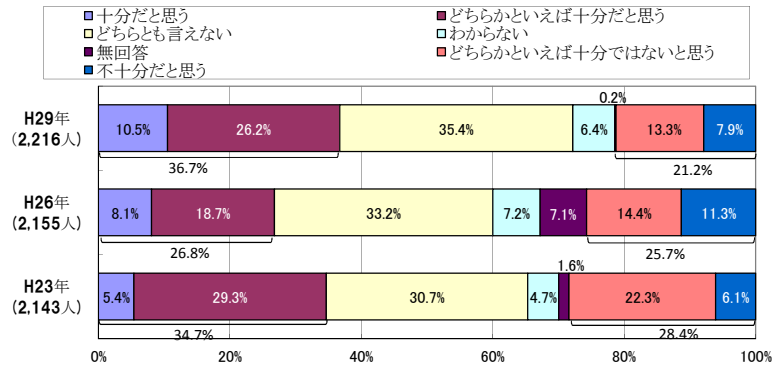
世帯別	1位		2位		3位		4位		5位		
	ひとり暮らし (293人)	テレビ・ラジオ	81.9	インターネット上のニュースサイト(警察以外からの情報)	57.7	新聞	34.8	家族や友人との会話(電話を含む)	23.5	フェイスブックやツイッターなどのSNS	22.2
	夫婦のみ (544人)	テレビ・ラジオ	90.6	新聞	66.7	インターネット上のニュースサイト(警察以外からの情報)	38.8	家族や友人との会話(電話を含む)	30.1	自治体や自治会の広報(回覧板・市報など)	22.4
	親と子 (1,150人)	テレビ・ラジオ	86.1	インターネット上のニュースサイト(警察以外からの情報)	57.5	新聞	47.3	家族や友人との会話(電話を含む)	29.0	フェイスブックやツイッターなどのSNS	16.6
親と子と孫 (196人)	テレビ・ラジオ	84.2	インターネット上のニュースサイト(警察以外からの情報)	55.6	新聞	53.6	家族や友人との会話(電話を含む)	29.1	フェイスブックやツイッターなどのSNS	18.9	



- 約9割が「テレビ・ラジオ」で情報を入手していると回答しています。
- 「インターネット上のニュースサイト」の割合は、前回(平成26年)の42.8%から52.5%に9.7ポイント増加しています。
- 30歳代以下の若い年代では「フェイスブックやツイッターなどのSNS」が第5位以内に入っています。

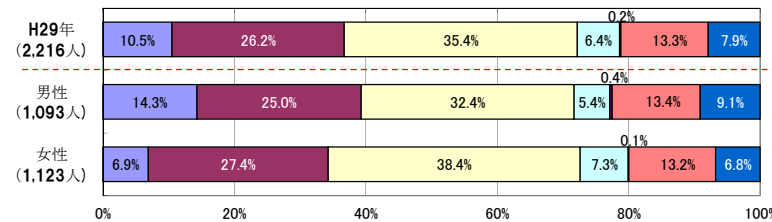
問4 あなたは、治安や犯罪に関する警察や自治体からの情報提供は十分だと思いますか。

【全体(過去の調査との比較)】

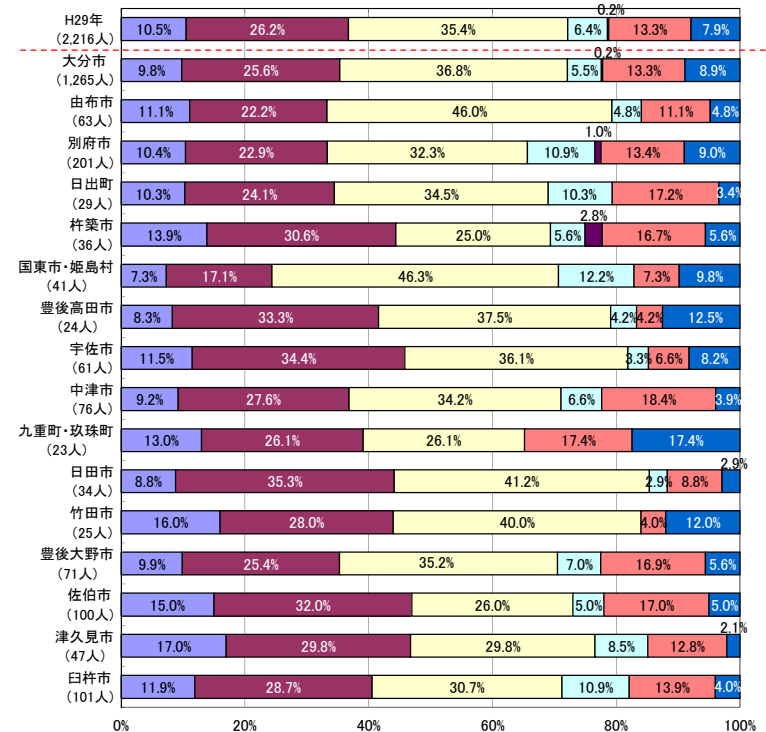


- 「(どちらかといえば)十分」の割合は約4割で、3年前(平成26年)よりも増加しています。
- 「(どちらかといえば)不十分」の割合は約2割で、3年前(平成26年)よりも減少しています。
- 20歳未満と70歳以上が、「(どちらかといえば)十分だと思う」の割合が大きくなっています。
- 30歳代では、「不十分だと思う」の割合が特に大きくなっています。

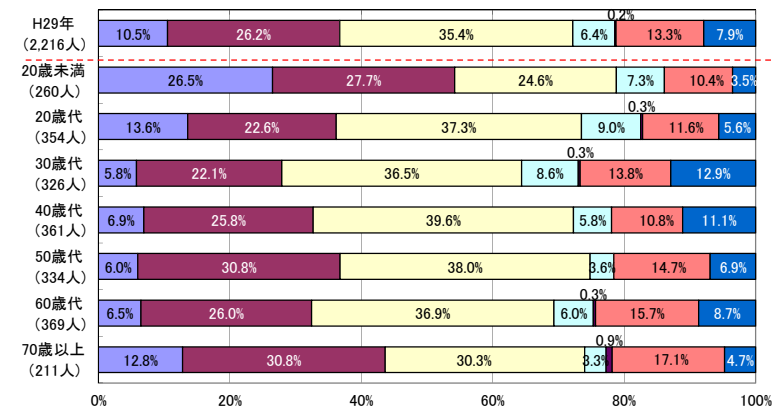
【男女別】



【住居地別】



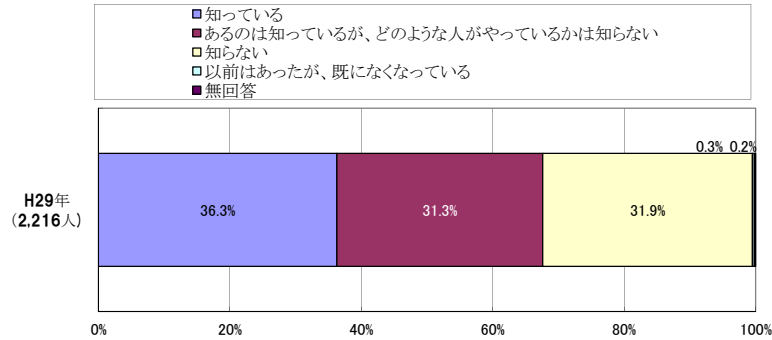
【年代別】



問5

あなたは、地域や職域で活動を行っている防犯団体(防犯パトロール隊など)を知っていますか。

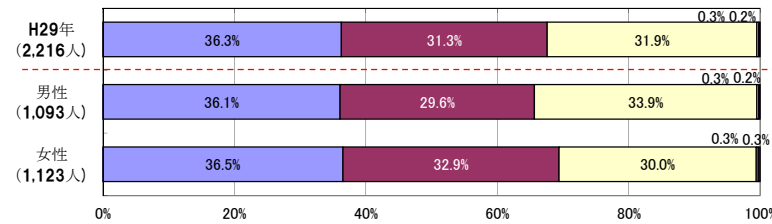
【全体(過去の調査なし)】



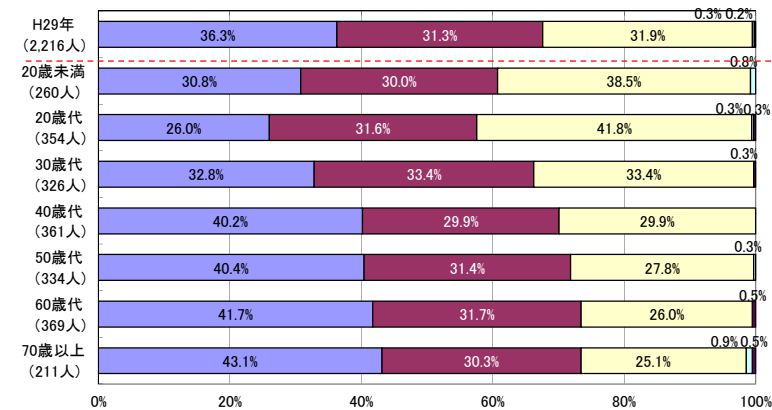
【この設問は平成29年新規設問】

- 約7割が「(あるのは)知っている」と回答しています。
- 女性の方が「(あるのは)知っている」の割合が大きくなっています。
- 20歳代から年代が上がるにつれて、「知っている」の割合が大きくなっています。

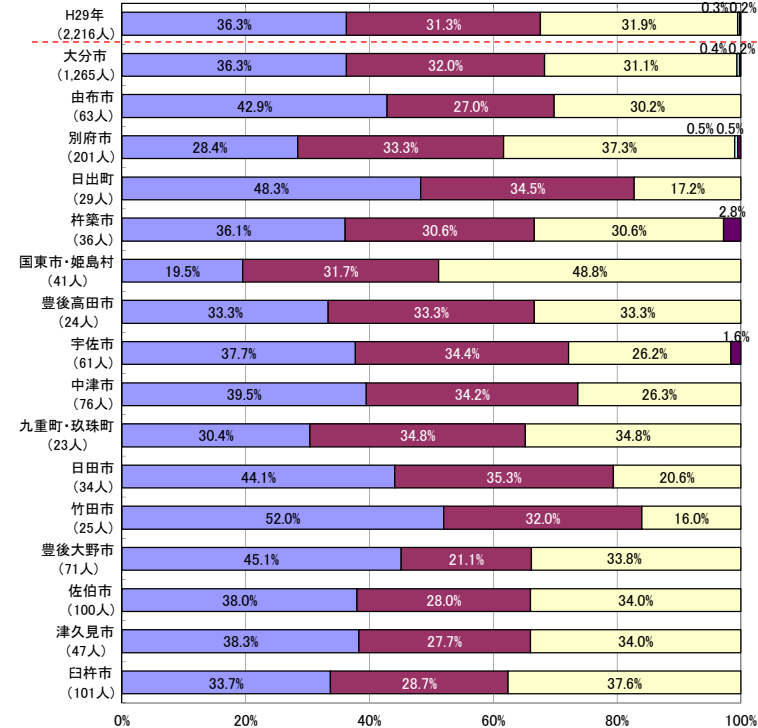
【男女別】



【年代別】



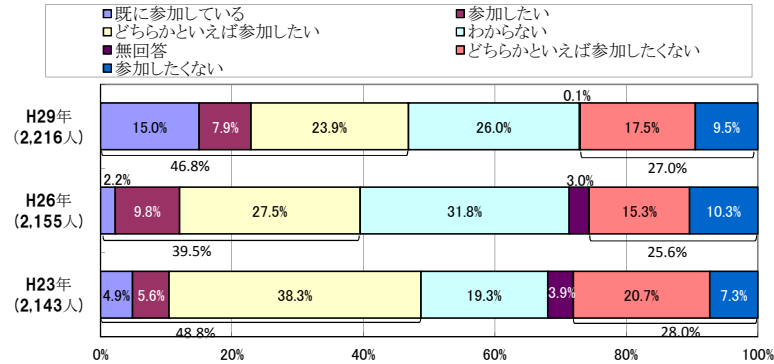
【住居地別】



問6

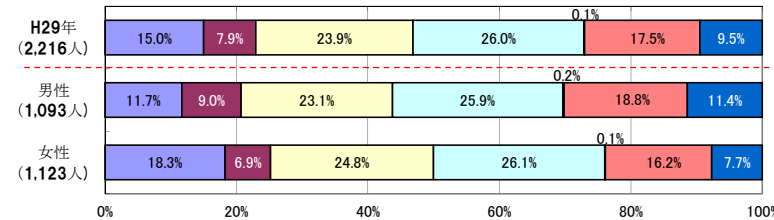
あなたは、地域や職域などで、犯罪予防・被害防止を目的とした防犯活動(子供の登下校見守り活動等を含む。)に参加したことがありますか。無い場合、参加したいと思いますか。

【全体(過去の調査との比較)】

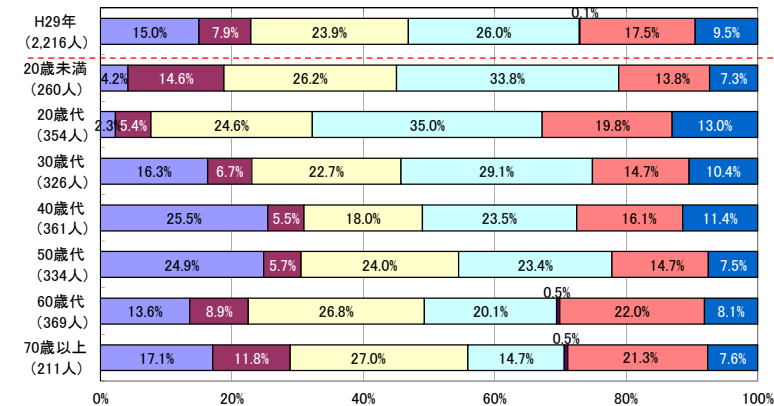


- 「既に参加している」の割合は15%で、3年前(平成26年)から約7倍に増加しています。
- 女性の方が「既に参加している」の割合が大きくなっています。
- 「既に参加している」の割合は、20歳代以下では非常に低く、40歳代及び50歳代では大きくなっています。

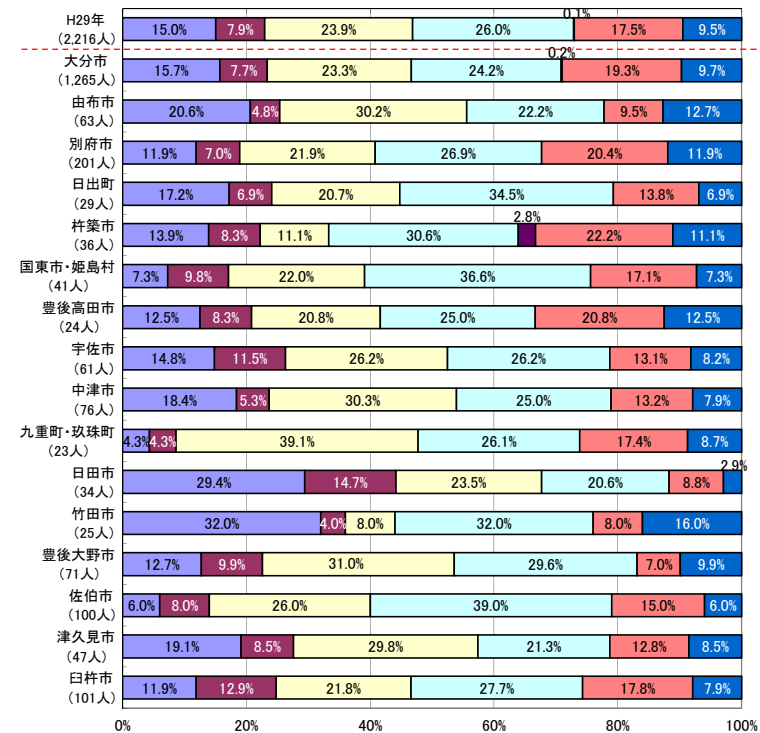
【男女別】



【年代別】



【住居地別】



問6-1

問6で「既に参加している」と回答した方にお聞きします。
 地域や職域で行っている防犯活動に対しては、今後、どのような支援を行う必要があると思いますか。(複数回答可)

※ 下表中、各順位右欄の数値の単位は、「%」です。

		1位	2位	3位	4位	5位				
全体 (333人)	活動を行う人員を増加させるための支援	45.3	警察官との合同パトロールなど、活動自体の支援	39.6	行政機関や学校関係者などとの連携強化に向けた援助	32.4	犯罪状況や具体的事例紹介など、積極的な情報提供	32.1	より良い活動を行うため、必要な資金や物品などの援助	23.1
	講習会や研修会開催など、活動する者の知識向上に向けた援助	17.7	活動自体を盛り上げるため、新聞やテレビ等のメディアを活用した広報	13.5	その他	3.6	わからない	2.7	無回答	0.9

		1位	2位	3位	4位	5位					
男女別	男性 (128人)	活動を行う人員を増加させるための支援	48.4	警察官との合同パトロールなど、活動自体の支援	37.5	より良い活動を行うため、必要な資金や物品などの援助	33.6	行政機関や学校関係者などとの連携強化に向けた援助	27.3	犯罪状況や具体的事例紹介など、積極的な情報提供	24.2
	女性 (205人)	活動を行う人員を増加させるための支援	43.4	警察官との合同パトロールなど、活動自体の支援	41.0	犯罪状況や具体的事例紹介など、積極的な情報提供	37.1	行政機関や学校関係者などとの連携強化に向けた援助	35.6	より良い活動を行うため、必要な資金や物品などの援助	16.6

		1位	2位	3位	4位	5位					
年代別	20歳未満 (11人)	より良い活動を行うため、必要な資金や物品などの援助	36.4	活動を行う人員を増加させるための支援	36.4	犯罪状況や具体的事例紹介など、積極的な情報提供	18.2	警察官との合同パトロールなど、活動自体の支援	18.2	活動自体を盛り上げるため、新聞やテレビ等のメディアを活用した広報	18.2
	20歳代 (8人)	活動を行う人員を増加させるための支援	62.5	より良い活動を行うため、必要な資金や物品などの援助	37.5	犯罪状況や具体的事例紹介など、積極的な情報提供	25.0	講習会や研修会開催など、活動する者の知識向上に向けた援助	25.0	行政機関や学校関係者などとの連携強化に向けた援助	25.0
	30歳代 (53人)	警察官との合同パトロールなど、活動自体の支援	47.2	活動を行う人員を増加させるための支援	37.7	行政機関や学校関係者などとの連携強化に向けた援助	28.3	犯罪状況や具体的事例紹介など、積極的な情報提供	24.5	より良い活動を行うため、必要な資金や物品などの援助	17.0
	40歳代 (92人)	活動を行う人員を増加させるための支援	52.2	行政機関や学校関係者などとの連携強化に向けた援助	45.7	警察官との合同パトロールなど、活動自体の支援	45.7	犯罪状況や具体的事例紹介など、積極的な情報提供	38.0	より良い活動を行うため、必要な資金や物品などの援助	20.7
	50歳代 (83人)	活動を行う人員を増加させるための支援	44.6	警察官との合同パトロールなど、活動自体の支援	39.8	犯罪状況や具体的事例紹介など、積極的な情報提供	36.1	行政機関や学校関係者などとの連携強化に向けた援助	30.1	より良い活動を行うため、必要な資金や物品などの援助	19.3
	60歳代 (50人)	警察官との合同パトロールなど、活動自体の支援	44.0	活動を行う人員を増加させるための支援	36.0	犯罪状況や具体的事例紹介など、積極的な情報提供	34.0	行政機関や学校関係者などとの連携強化に向けた援助	30.0	より良い活動を行うため、必要な資金や物品などの援助	28.0
	70歳以上 (36人)	活動を行う人員を増加させるための支援	52.8	講習会や研修会開催など、活動する者の知識向上に向けた援助	38.9	より良い活動を行うため、必要な資金や物品などの援助	33.3	活動自体を盛り上げるため、新聞やテレビ等のメディアを活用した広報	25.0	犯罪状況や具体的事例紹介など、積極的な情報提供	22.2

		1位	2位	3位	4位	5位					
世帯別	ひとり暮らし (23人)	活動を行う人員を増加させるための支援	47.8	より良い活動を行うため、必要な資金や物品などの援助	43.5	警察官との合同パトロールなど、活動自体の支援	39.1	行政機関や学校関係者などとの連携強化に向けた援助	34.8	犯罪状況や具体的事例紹介など、積極的な情報提供	21.7
	夫婦のみ (60人)	活動を行う人員を増加させるための支援	53.3	警察官との合同パトロールなど、活動自体の支援	38.3	犯罪状況や具体的事例紹介など、積極的な情報提供	26.7	行政機関や学校関係者などとの連携強化に向けた援助	25.0	講習会や研修会開催など、活動する者の知識向上に向けた援助	21.7
	親と子 (200人)	活動を行う人員を増加させるための支援	46.0	行政機関や学校関係者などとの連携強化に向けた援助	37.0	警察官との合同パトロールなど、活動自体の支援	36.5	犯罪状況や具体的事例紹介など、積極的な情報提供	35.0	より良い活動を行うため、必要な資金や物品などの援助	22.5
	親と子と孫 (44人)	警察官との合同パトロールなど、活動自体の支援	52.3	活動を行う人員を増加させるための支援	36.4	犯罪状況や具体的事例紹介など、積極的な情報提供	31.8	行政機関や学校関係者などとの連携強化に向けた援助	25.0	講習会や研修会開催など、活動する者の知識向上に向けた援助	22.7

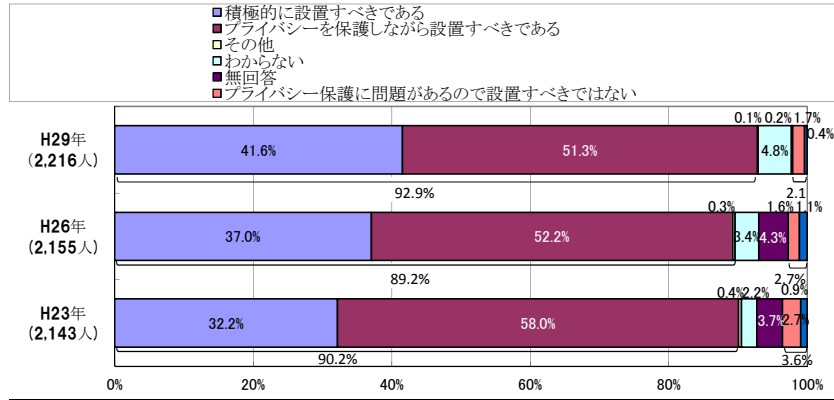


- 4割以上が「活動を行う人員を増加させるための支援」が必要だと思っています。
- 前問(問6)で、「既に参加している」の割合が多かった40歳代及び50歳代も「活動を行う人員を増加させるための支援」が第1位となっています。

問7

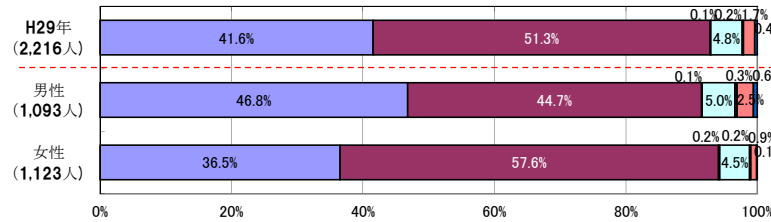
道路や繁華街など、街頭に設置される防犯カメラについて、あなたの意識に一番近いものはどれですか。

【全体(過去の調査との比較)】

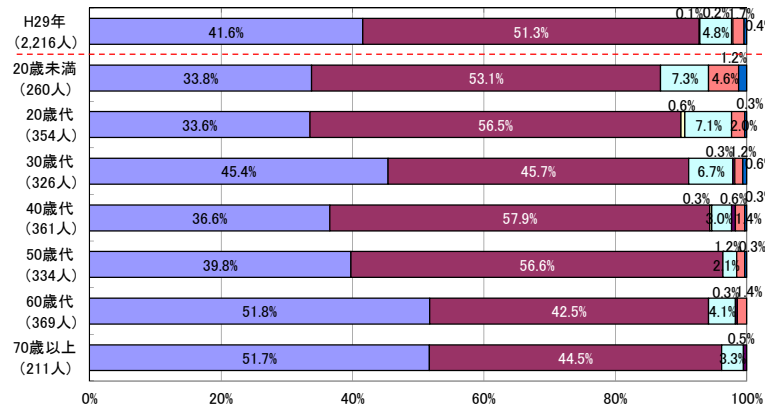


- 9割以上が「(プライバシーを保護しながら)設置すべき」と回答しています。
- 「設置すべきではない」の割合は0.4%で、「プライバシーの保護に問題があるので設置すべきではない」の割合は1.7%となっています。
- 「積極的に設置するべきである」の割合は、60歳代及び70歳以上で50%を超えています。

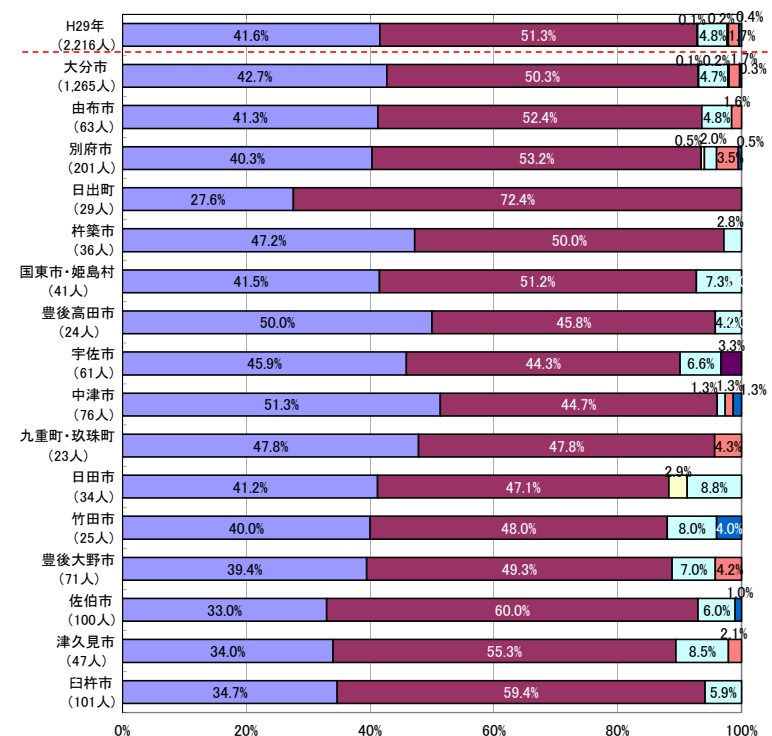
【男女別】



【年代別】



【住居地別】



問7-1

問7で「積極的に設置すべき」又は「プライバシーを保護しながら設置すべき」と回答した方にお聞きます。今後、街頭防犯カメラをどこに設置してほしいですか。(複数回答可)

※ 下表中、各順位右欄の数値の単位は、「%」です。

全体 (2,057人)	1位		2位		3位		4位		5位	
	道路(通学路・通勤路・地下道等)	75.2	公園(公園のトイレ付近を含む)	53.3	駐車場・駐輪場	49.9	学校又は学校付近	48.7	駅(駅舎)・バスターミナル	40.1
	6位		7位		8位		9位		10位	
	商店街・繁華街	39.3	娯楽・遊技施設(映画館・遊園地・ゲームセンター等)周辺	32.6	大規模商業施設周辺	30.2	その他	2.5	無回答	0.4

男女別		1位		2位		3位		4位		5位	
		男性 (1,000人)	道路(通学路・通勤路・地下道等)	72.7	駐車場・駐輪場	48.2	学校又は学校付近	47.4	公園(公園のトイレ付近を含む)	44.9	商店街・繁華街
女性 (1,057人)	道路(通学路・通勤路・地下道等)	77.6	公園(公園のトイレ付近を含む)	61.2	駐車場・駐輪場	51.6	学校又は学校付近	49.9	駅(駅舎)・バスターミナル	40.5	

年代別		1位		2位		3位		4位		5位	
		20歳未満 (226人)	道路(通学路・通勤路・地下道等)	55.8	駐車場・駐輪場	46.9	駅(駅舎)・バスターミナル	44.2	学校又は学校付近	41.2	公園(公園のトイレ付近を含む)
20歳代 (319人)	道路(通学路・通勤路・地下道等)	71.2	駐車場・駐輪場	55.8	公園(公園のトイレ付近を含む)	47.3	学校又は学校付近	45.5	駅(駅舎)・バスターミナル	42.3	
30歳代 (297人)	道路(通学路・通勤路・地下道等)	78.8	学校又は学校付近	63.6	公園(公園のトイレ付近を含む)	57.9	駐車場・駐輪場	54.9	商店街・繁華街	46.5	
40歳代 (341人)	道路(通学路・通勤路・地下道等)	83.0	学校又は学校付近	58.9	駐車場・駐輪場	54.5	公園(公園のトイレ付近を含む)	53.4	商店街・繁華街	44.0	
50歳代 (322人)	道路(通学路・通勤路・地下道等)	80.4	公園(公園のトイレ付近を含む)	58.7	駐車場・駐輪場	51.2	学校又は学校付近	47.2	商店街・繁華街	45.7	
60歳代 (348人)	道路(通学路・通勤路・地下道等)	75.9	公園(公園のトイレ付近を含む)	58.6	学校又は学校付近	43.1	駐車場・駐輪場	42.8	駅(駅舎)・バスターミナル	37.4	
70歳以上 (203人)	道路(通学路・通勤路・地下道等)	75.4	公園(公園のトイレ付近を含む)	58.1	駐車場・駐輪場	38.9	学校又は学校付近	34.5	商店街・繁華街	31.5	

世帯別		1位		2位		3位		4位		5位	
		ひとり暮らし (259人)	道路(通学路・通勤路・地下道等)	70.3	駐車場・駐輪場	52.5	公園(公園のトイレ付近を含む)	48.3	学校又は学校付近	45.6	駅(駅舎)・バスターミナル
夫婦のみ (511人)	道路(通学路・通勤路・地下道等)	74.8	公園(公園のトイレ付近を含む)	55.4	駐車場・駐輪場	48.1	学校又は学校付近	40.5	商店街・繁華街	40.3	
親と子 (1,078人)	道路(通学路・通勤路・地下道等)	76.3	公園(公園のトイレ付近を含む)	54.0	学校又は学校付近	52.1	駐車場・駐輪場	50.6	駅(駅舎)・バスターミナル	41.8	
親と子と孫 (179人)	道路(通学路・通勤路・地下道等)	78.8	学校又は学校付近	56.4	公園(公園のトイレ付近を含む)	50.3	駐車場・駐輪場	47.5	商店街・繁華街	40.8	



- 7割以上が「道路(通学路・通勤路・地下道等)」への設置を望んでいます。
- 「学校又は学校付近」への設置を望む割合は48.7%で、3年前(平成26年)の23.4%から25.3ポイントの大幅な増加となっています。
- 年代別の第2位は、20歳代以下では「駐車場・駐輪場」、30～40歳代では「学校又は学校付近」、50歳代以上では「公園(公園のトイレ付近を含む)」となっています。

問8 あなたは、子供を犯罪から守るために、今後、より力を入れるべき対策は何だと思いますか。(複数回答可)

※ 下表中、各順位右欄の数値の単位は、「%」です。

全体 (2,216人)	1位		2位		3位		4位		5位	
	学校や家庭における防犯についての指導や教育	63.9	通学路などの街頭への防犯カメラの設置	57.9	警察による通学路や学校周辺のパトロール強化	48.9	地域の犯罪発生状況や不審者情報などの情報提供	44.5	子ども連絡所など、地域住民による通学路の見守り活動	37.9
	6位		7位		8位		9位		10位	
	学校の職員による学校及び周辺の安全対策・警戒活動	34.6	警察と学校の連携による声掛け事案についての防犯対策	33.1	わからない	3.5	その他	2.1	無回答	0.3

男女別	1位		2位		3位		4位		5位	
	男性 (1,093人)	学校や家庭における防犯についての指導や教育	60.8	通学路などの街頭への防犯カメラの設置	54.4	警察による通学路や学校周辺のパトロール強化	46.1	地域の犯罪発生状況や不審者情報などの情報提供	39.3	学校の職員による学校及び周辺の安全対策・警戒活動
女性 (1,123人)	学校や家庭における防犯についての指導や教育	66.9	通学路などの街頭への防犯カメラの設置	61.2	警察による通学路や学校周辺のパトロール強化	50.8	地域の犯罪発生状況や不審者情報などの情報提供	49.5	子ども連絡所など、地域住民による通学路の見守り活動	41.9

年代別	1位		2位		3位		4位		5位	
	20歳未満 (260人)	学校や家庭における防犯についての指導や教育	59.6	通学路などの街頭への防犯カメラの設置	40.4	警察による通学路や学校周辺のパトロール強化	38.9	学校の職員による学校及び周辺の安全対策・警戒活動	36.5	子ども連絡所など、地域住民による通学路の見守り活動
20歳代 (354人)	学校や家庭における防犯についての指導や教育	53.1	警察による通学路や学校周辺のパトロール強化	48.0	通学路などの街頭への防犯カメラの設置	46.3	学校の職員による学校及び周辺の安全対策・警戒活動	37.0	地域の犯罪発生状況や不審者情報などの情報提供	37.0
30歳代 (326人)	学校や家庭における防犯についての指導や教育	69.3	通学路などの街頭への防犯カメラの設置	59.8	警察による通学路や学校周辺のパトロール強化	57.1	地域の犯罪発生状況や不審者情報などの情報提供	50.0	学校の職員による学校及び周辺の安全対策・警戒活動	45.4
40歳代 (361人)	学校や家庭における防犯についての指導や教育	64.0	通学路などの街頭への防犯カメラの設置	61.8	警察による通学路や学校周辺のパトロール強化	54.8	地域の犯罪発生状況や不審者情報などの情報提供	51.0	警察と学校の連携による声掛け事案についての防犯対策	38.5
50歳代 (334人)	学校や家庭における防犯についての指導や教育	66.5	通学路などの街頭への防犯カメラの設置	65.3	地域の犯罪発生状況や不審者情報などの情報提供	53.6	警察による通学路や学校周辺のパトロール強化	52.4	子ども連絡所など、地域住民による通学路の見守り活動	41.0
60歳代 (369人)	学校や家庭における防犯についての指導や教育	67.8	通学路などの街頭への防犯カメラの設置	65.0	地域の犯罪発生状況や不審者情報などの情報提供	48.0	子ども連絡所など、地域住民による通学路の見守り活動	45.5	警察による通学路や学校周辺のパトロール強化	42.3
70歳以上 (211人)	学校や家庭における防犯についての指導や教育	67.8	通学路などの街頭への防犯カメラの設置	64.9	警察による通学路や学校周辺のパトロール強化	42.2	地域の犯罪発生状況や不審者情報などの情報提供	40.8	警察と学校の連携による声掛け事案についての防犯対策	34.6

世帯別	1位		2位		3位		4位		5位	
	ひとり暮らし (293人)	学校や家庭における防犯についての指導や教育	53.6	通学路などの街頭への防犯カメラの設置	47.1	警察による通学路や学校周辺のパトロール強化	46.4	地域の犯罪発生状況や不審者情報などの情報提供	39.9	子ども連絡所など、地域住民による通学路の見守り活動
夫婦のみ (544人)	学校や家庭における防犯についての指導や教育	67.3	通学路などの街頭への防犯カメラの設置	60.8	地域の犯罪発生状況や不審者情報などの情報提供	45.0	警察による通学路や学校周辺のパトロール強化	42.1	子ども連絡所など、地域住民による通学路の見守り活動	38.1
親と子 (1,150人)	学校や家庭における防犯についての指導や教育	65.4	通学路などの街頭への防犯カメラの設置	58.3	警察による通学路や学校周辺のパトロール強化	51.2	地域の犯罪発生状況や不審者情報などの情報提供	44.6	子ども連絡所など、地域住民による通学路の見守り活動	37.6
親と子と孫 (196人)	通学路などの街頭への防犯カメラの設置	63.3	学校や家庭における防犯についての指導や教育	62.8	警察による通学路や学校周辺のパトロール強化	55.1	地域の犯罪発生状況や不審者情報などの情報提供	51.0	学校の職員による学校及び周辺の安全対策・警戒活動	42.3



- 半数以上が「学校や家庭における防犯についての指導や教育」、「通学路などの街頭への防犯カメラの設置」に力を入れるべきと回答しています。
- 男女別で見ますと、第1位から第5位まで全て同じ結果となっており、全選択肢で女性の割合が男性よりも大きくなっています。

問9 あなたは、少年非行を防止するため、今後どのような取組が必要だと思いますか。(複数回答可)

※ 下表中、各順位右欄の数値の単位は、「%」です。

全体 (2,216人)	1位		2位		3位		4位		5位	
	保護者による家庭でのしつけ	73.5	学校における指導の強化	41.6	警察官によるパトロールの強化	35.5	警察と学校が連携した「少年非行防止教室」の開催	33.5	警察と行政が連携した少年にとって有害な環境の浄化	30.5
6位		7位		8位		9位				
少年の社会貢献の機会を提供するボランティア活動	23.7	わからない	4.5	その他	2.8	無回答	0.1			

男女別	1位		2位		3位		4位		5位	
	男性 (1,093人)	保護者による家庭でのしつけ	72.0	学校における指導の強化	41.7	警察官によるパトロールの強化	34.9	警察と学校が連携した「少年非行防止教室」の開催	32.0	警察と行政が連携した少年にとって有害な環境の浄化
女性 (1,123人)	保護者による家庭でのしつけ	75.0	学校における指導の強化	41.5	警察官によるパトロールの強化	36.1	警察と学校が連携した「少年非行防止教室」の開催	35.0	警察と行政が連携した少年にとって有害な環境の浄化	32.5

年代別	1位		2位		3位		4位		5位	
	20歳未満 (260人)	保護者による家庭でのしつけ	56.9	学校における指導の強化	38.8	警察官によるパトロールの強化	30.8	警察と学校が連携した「少年非行防止教室」の開催	26.2	警察と行政が連携した少年にとって有害な環境の浄化
20歳代 (354人)	保護者による家庭でのしつけ	63.0	学校における指導の強化	40.4	警察官によるパトロールの強化	34.5	警察と行政が連携した少年にとって有害な環境の浄化	26.8	警察と学校が連携した「少年非行防止教室」の開催	26.3
30歳代 (326人)	保護者による家庭でのしつけ	74.8	学校における指導の強化	46.3	警察官によるパトロールの強化	39.0	警察と行政が連携した少年にとって有害な環境の浄化	31.9	警察と学校が連携した「少年非行防止教室」の開催	31.3
40歳代 (361人)	保護者による家庭でのしつけ	78.1	学校における指導の強化	41.3	警察官によるパトロールの強化	38.5	警察と学校が連携した「少年非行防止教室」の開催	37.1	警察と行政が連携した少年にとって有害な環境の浄化	33.2
50歳代 (334人)	保護者による家庭でのしつけ	78.7	警察と学校が連携した「少年非行防止教室」の開催	38.9	警察官によるパトロールの強化	38.3	学校における指導の強化	38.0	警察と行政が連携した少年にとって有害な環境の浄化	34.7
60歳代 (369人)	保護者による家庭でのしつけ	79.1	学校における指導の強化	40.9	警察と学校が連携した「少年非行防止教室」の開催	34.4	警察官によるパトロールの強化	33.6	警察と行政が連携した少年にとって有害な環境の浄化	32.8
70歳以上 (211人)	保護者による家庭でのしつけ	83.4	学校における指導の強化	47.4	警察と学校が連携した「少年非行防止教室」の開催	42.2	警察官によるパトロールの強化	31.8	警察と行政が連携した少年にとって有害な環境の浄化	31.3

世帯別	1位		2位		3位		4位		5位	
	ひとり暮らし (293人)	保護者による家庭でのしつけ	68.6	学校における指導の強化	38.2	警察と行政が連携した少年にとって有害な環境の浄化	29.0	警察と学校が連携した「少年非行防止教室」の開催	28.3	警察官によるパトロールの強化
夫婦のみ (544人)	保護者による家庭でのしつけ	77.4	学校における指導の強化	42.3	警察と学校が連携した「少年非行防止教室」の開催	34.9	警察官によるパトロールの強化	34.4	警察と行政が連携した少年にとって有害な環境の浄化	32.7
親と子 (1,150人)	保護者による家庭でのしつけ	73.3	学校における指導の強化	42.3	警察官によるパトロールの強化	38.4	警察と学校が連携した「少年非行防止教室」の開催	34.7	警察と行政が連携した少年にとって有害な環境の浄化	28.8
親と子と孫 (196人)	保護者による家庭でのしつけ	70.4	学校における指導の強化	41.3	警察と行政が連携した少年にとって有害な環境の浄化	35.2	警察と学校が連携した「少年非行防止教室」の開催	32.1	警察官によるパトロールの強化	31.1



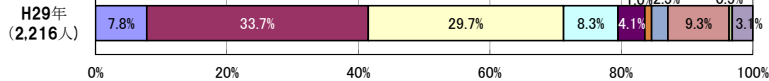
- 7割以上が「保護者による家庭でのしつけ」が必要と回答しています。
- 50歳代では「学校と警察が連携した少年非行防止教室の開催」が第2位となっています。
- 年代が上がるに連れて「保護者による家庭でのしつけ」の割合が大きくなっています。

問10

あなた又はあなたの家族が、近い将来、振り込め詐欺などの特殊詐欺の被害を受ける可能性がありますか。

【全体(過去の調査なし)】

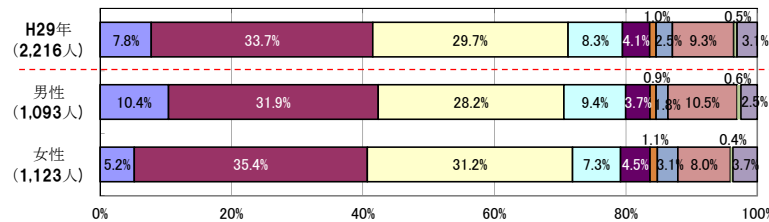
- 自分や家族が被害を受けることは絶対にない。
- 絶対とは言いきれないが、家族で話し合うなどしており、自分や家族は被害を受けないと思う。
- 犯人が騙してくる内容によっては、自分や家族が被害を受ける可能性はある。
- 自分は大丈夫であるが、家族が被害を受ける可能性はある。
- 家族の判断力が衰えており、騙されないか非常に心配である。
- 家族は大丈夫と思うが、自分が被害を受ける可能性はある。
- 自分自身、どのように対処すればよいか分からず、被害を受けないか不安である。
- わからない
- その他
- 無回答



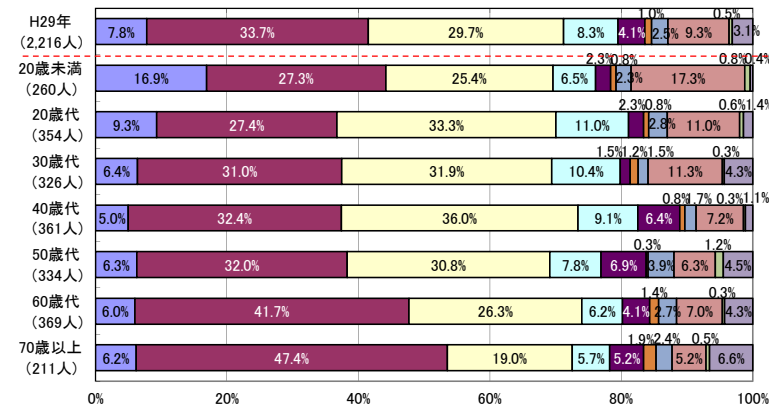
【この設問は平成29年新規設問】

- 4割以上が「自分や家族は被害を受けない」と思っています。
- 男性では1割の人が「自分や家族は絶対に被害を受けない」と思っており、女性の2倍となっています。
- 60歳以上では2人に1人が「自分や家族は被害を受けない」と思っており、他の年代よりも割合が大きくなっています。

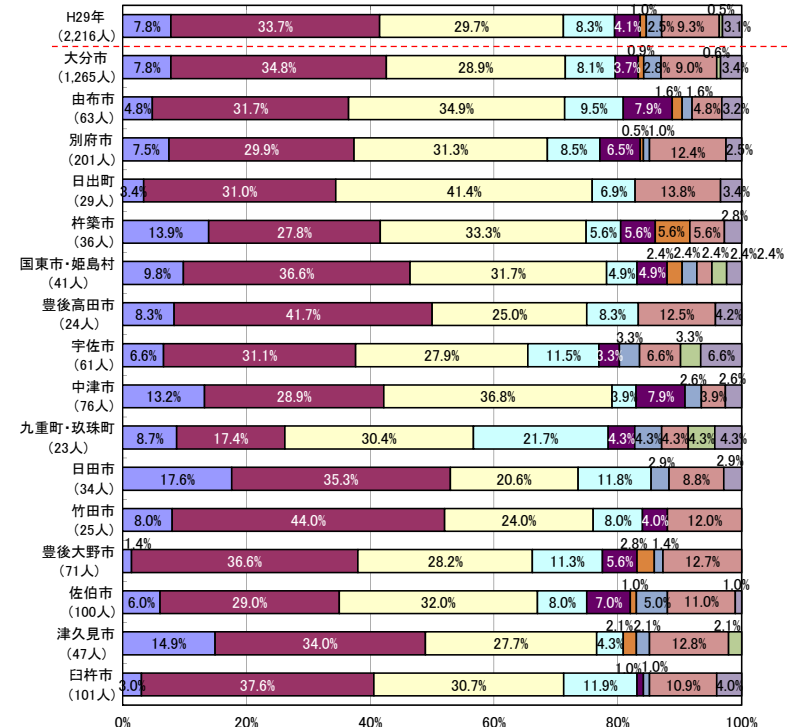
【 男 女 別 】



【 年 代 別 】



【 住 居 地 別 】



問11

あなたは、交番や駐在所の警察官にどのような活動を強化してほしいと思いますか。(複数回答可)

※ 下表中、各順位右欄の数値の単位は、「%」です。

全体 (2,216人)	1位		2位		3位		4位		5位		
	防犯のためのパトロール	64.9	通報に対する素早い対応	49.2	身近に発生した犯罪の検挙(犯人の逮捕)	37.9	交番・駐在所における警察官常駐(いつも交番・駐在所にいます)	28.9	困りごとや要望への対応	25.5	
	6位		7位		8位		9位		10位		
犯罪の発生状況や交通事故の発生状況等に関する情報提供	23.2	交通違反の取締りや交通指導	15.8	巡回連絡(家庭訪問)	15.7	特になし	3.3	わからない	3.1		
11位		12位									
その他	1.2	無回答	0.1								

男女別	1位		2位		3位		4位		5位	
	男性 (1,093人)	防犯のためのパトロール	62.5	通報に対する素早い対応	45.6	身近に発生した犯罪の検挙(犯人の逮捕)	37.9	交番・駐在所における警察官常駐(いつも交番・駐在所にいます)	26.0	困りごとや要望への対応
女性 (1,123人)	防犯のためのパトロール	67.3	通報に対する素早い対応	52.8	身近に発生した犯罪の検挙(犯人の逮捕)	37.8	交番・駐在所における警察官常駐(いつも交番・駐在所にいます)	31.8	困りごとや要望への対応	26.5

年代別	20歳未満 (260人)	防犯のためのパトロール	47.3	身近に発生した犯罪の検挙(犯人の逮捕)	35.4	通報に対する素早い対応	35.4	困りごとや要望への対応	22.7	犯罪の発生状況や交通事故の発生状況等に関する情報提供	22.7
	20歳代 (354人)	防犯のためのパトロール	53.4	通報に対する素早い対応	47.7	身近に発生した犯罪の検挙(犯人の逮捕)	40.4	交番・駐在所における警察官常駐(いつも交番・駐在所にいます)	26.3	困りごとや要望への対応	25.7
	30歳代 (326人)	防犯のためのパトロール	68.4	通報に対する素早い対応	54.0	身近に発生した犯罪の検挙(犯人の逮捕)	46.0	困りごとや要望への対応	32.2	交番・駐在所における警察官常駐(いつも交番・駐在所にいます)	30.4
	40歳代 (361人)	防犯のためのパトロール	72.0	通報に対する素早い対応	55.7	交番・駐在所における警察官常駐(いつも交番・駐在所にいます)	39.6	身近に発生した犯罪の検挙(犯人の逮捕)	38.2	困りごとや要望への対応	28.8
	50歳代 (334人)	防犯のためのパトロール	71.0	通報に対する素早い対応	51.5	身近に発生した犯罪の検挙(犯人の逮捕)	37.7	交番・駐在所における警察官常駐(いつも交番・駐在所にいます)	35.9	困りごとや要望への対応	25.1
	60歳代 (369人)	防犯のためのパトロール	71.8	通報に対する素早い対応	49.1	身近に発生した犯罪の検挙(犯人の逮捕)	32.0	交番・駐在所における警察官常駐(いつも交番・駐在所にいます)	25.5	困りごとや要望への対応	22.2
	70歳以上 (211人)	防犯のためのパトロール	67.3	通報に対する素早い対応	47.4	身近に発生した犯罪の検挙(犯人の逮捕)	33.6	巡回連絡(家庭訪問)	26.5	交番・駐在所における警察官常駐(いつも交番・駐在所にいます)	23.7

世帯別	ひとり暮らし (293人)	防犯のためのパトロール	52.6	通報に対する素早い対応	48.8	身近に発生した犯罪の検挙(犯人の逮捕)	37.9	交番・駐在所における警察官常駐(いつも交番・駐在所にいます)	29.0	困りごとや要望への対応	25.9
	夫婦のみ (544人)	防犯のためのパトロール	69.3	通報に対する素早い対応	48.0	身近に発生した犯罪の検挙(犯人の逮捕)	34.9	交番・駐在所における警察官常駐(いつも交番・駐在所にいます)	30.3	困りごとや要望への対応	23.9
	親と子 (1,150人)	防犯のためのパトロール	65.9	通報に対する素早い対応	50.3	身近に発生した犯罪の検挙(犯人の逮捕)	40.7	交番・駐在所における警察官常駐(いつも交番・駐在所にいます)	28.2	困りごとや要望への対応	26.1
	親と子と孫 (196人)	防犯のためのパトロール	66.3	通報に対する素早い対応	45.9	身近に発生した犯罪の検挙(犯人の逮捕)	31.1	交番・駐在所における警察官常駐(いつも交番・駐在所にいます)	27.6	犯罪の発生状況や交通事故の発生状況等に関する情報提供	27.6

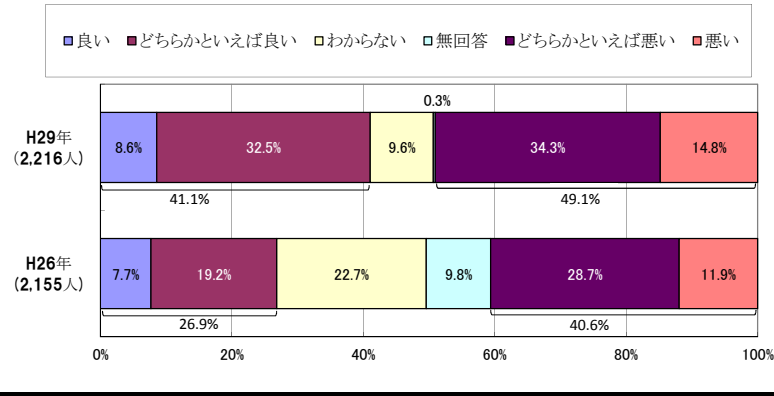


- 6割以上が「防犯のためのパトロール」を強化してほしいと思っています。
- 「防犯のためのパトロール」は、男女別、年代別、世帯別の全てにおいて、第1位となっています。
- 上位4位(全体)の順位は、3年前(平成26年)と同じでした。

問12

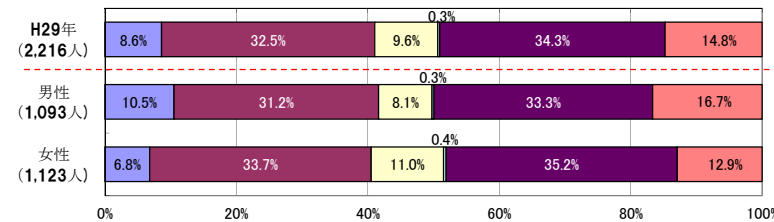
あなたは、大分県内の交通マナーについてどう感じていますか。

【全体(過去の調査との比較)】

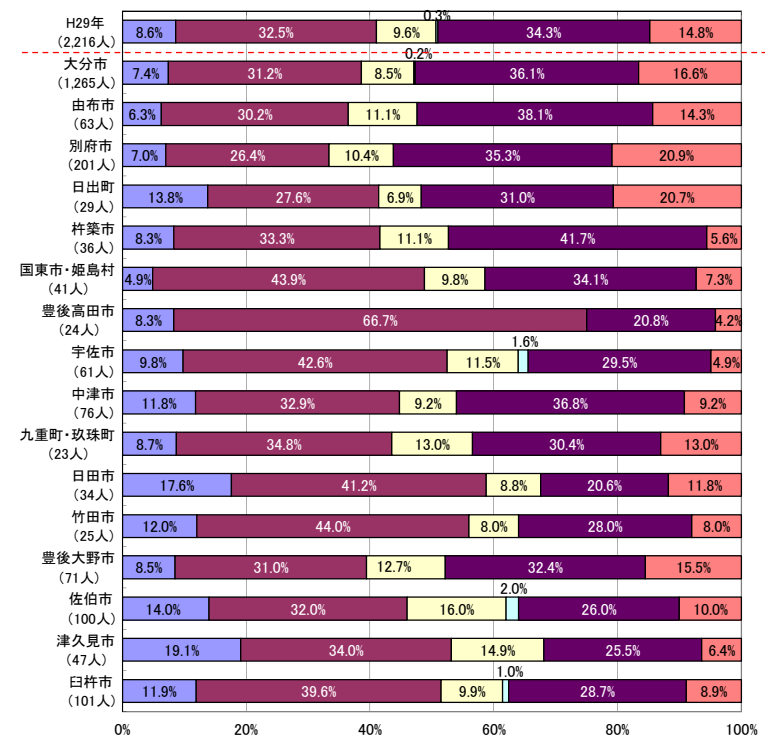


- 「(どちらかといえば)悪い」が49.1%で、「(どちらかといえば)良い」の41.1%を上回っています。
- 30歳～50歳代では、全体の割合と比較して「(どちらかといえば)悪い」の割合が大きくなっています。
- 20歳代以下では「(どちらかといえば)良い」の割合が大きくなっています。

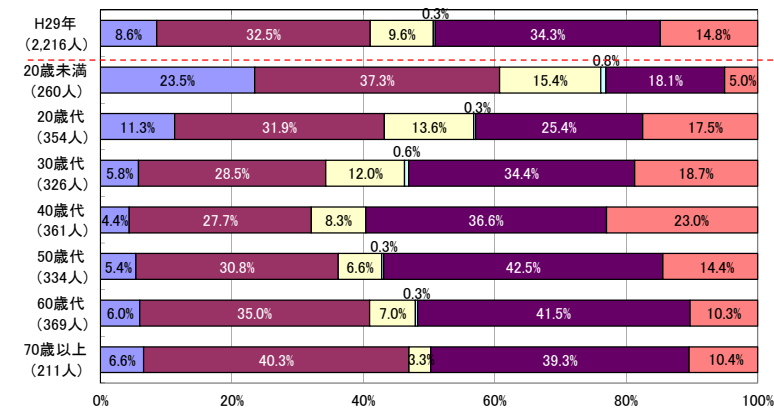
【男女別】



【住居地別】



【年代別】



問12-1

問12で「どちらかといえば悪い」又は「悪い」と回答した方にお聞きします。なぜそう思いますか。(複数回答可)

※ 下表中、各順位右欄の数値の単位は、「%」です。

		1位	2位	3位	4位	5位				
全体 (1,086人)	右左折の合図をしなかったり、合図が遅い自動車が多いから	67.3	携帯電話を使用しながら運転する自動車が多いから	57.4	横断歩道以外の場所や歩行者横断禁止の場所で道路を横断する歩行者が多いから	37.0	自動車のスピード違反が多いから	36.6	自動車の信号無視が多いから	34.0
	携帯電話を使用しながら運転する自転車が多いから	29.4	交差点や横断歩道で歩行者の横断を妨害する(停止しない)自動車が多いから	27.9	自転車の信号無視が多いから	23.6	駐車違反が多いから	20.6	歩行者の信号無視が多いから	18.8
	歩行者の通行を妨害(並進運転・道を譲らない)する自転車が多いから	16.9	その他	8.4	シートベルトをしなくて運転する自動車が多いから	7.3	わからない	0.6	無回答	0.4

		1位	2位	3位	4位	5位					
男女別	男性 (546人)	右左折の合図をしなかったり、合図が遅い自動車が多いから	66.7	携帯電話を使用しながら運転する自動車が多いから	56.2	自動車のスピード違反が多いから	37.4	自動車の信号無視が多いから	36.6	携帯電話を使用しながら運転する自転車が多いから	30.4
	女性 (540人)	右左折の合図をしなかったり、合図が遅い自動車が多いから	68.0	携帯電話を使用しながら運転する自動車が多いから	58.5	横断歩道以外の場所や歩行者横断禁止の場所で道路を横断する歩行者が多いから	43.9	自動車のスピード違反が多いから	35.9	自動車の信号無視が多いから	31.3

年代別	20歳未満 (60人)	自動車のスピード違反が多いから	48.3	携帯電話を使用しながら運転する自動車が多いから	43.3	携帯電話を使用しながら運転する自転車が多いから	40.0	右左折の合図をしなかったり、合図が遅い自動車が多いから	38.3	交差点や横断歩道で歩行者の横断を妨害する(停止しない)自動車が多いから	28.3
	20歳代 (152人)	右左折の合図をしなかったり、合図が遅い自動車が多いから	67.1	自動車のスピード違反が多いから	55.3	携帯電話を使用しながら運転する自動車が多いから	50.7	交差点や横断歩道で歩行者の横断を妨害する(停止しない)自動車が多いから	34.9	自動車の信号無視が多いから	31.6
	30歳代 (173人)	右左折の合図をしなかったり、合図が遅い自動車が多いから	69.4	携帯電話を使用しながら運転する自動車が多いから	56.1	横断歩道以外の場所や歩行者横断禁止の場所で道路を横断する歩行者が多いから	45.1	自動車のスピード違反が多いから	41.6	自転車の信号無視が多いから	26.6
	40歳代 (215人)	右左折の合図をしなかったり、合図が遅い自動車が多いから	74.0	携帯電話を使用しながら運転する自動車が多いから	52.1	横断歩道以外の場所や歩行者横断禁止の場所で道路を横断する歩行者が多いから	39.1	自動車の信号無視が多いから	34.0	交差点や横断歩道で歩行者の横断を妨害する(停止しない)自動車が多いから	32.6
	50歳代 (190人)	右左折の合図をしなかったり、合図が遅い自動車が多いから	67.4	携帯電話を使用しながら運転する自動車が多いから	62.1	横断歩道以外の場所や歩行者横断禁止の場所で道路を横断する歩行者が多いから	37.4	自動車の信号無視が多いから	35.3	携帯電話を使用しながら運転する自転車が多いから	31.6
	60歳代 (191人)	右左折の合図をしなかったり、合図が遅い自動車が多いから	71.7	携帯電話を使用しながら運転する自動車が多いから	63.9	自動車の信号無視が多いから	39.8	横断歩道以外の場所や歩行者横断禁止の場所で道路を横断する歩行者が多いから	38.2	携帯電話を使用しながら運転する自転車が多いから	31.4
	70歳以上 (105人)	携帯電話を使用しながら運転する自動車が多いから	67.6	右左折の合図をしなかったり、合図が遅い自動車が多いから	59.0	自動車の信号無視が多いから	44.8	携帯電話を使用しながら運転する自転車が多いから	33.3	自動車のスピード違反が多いから	32.4

世帯別	ひとり暮らし (137人)	右左折の合図をしなかったり、合図が遅い自動車が多いから	70.1	携帯電話を使用しながら運転する自動車が多いから	54.0	自動車のスピード違反が多いから	40.9	交差点や横断歩道で歩行者の横断を妨害する(停止しない)自動車が多いから	32.8	自動車の信号無視が多いから	30.7
	夫婦のみ (291人)	右左折の合図をしなかったり、合図が遅い自動車が多いから	70.1	携帯電話を使用しながら運転する自動車が多いから	61.5	横断歩道以外の場所や歩行者横断禁止の場所で道路を横断する歩行者が多いから	40.2	自動車の信号無視が多いから	39.2	自動車のスピード違反が多いから	35.1
	親と子 (565人)	右左折の合図をしなかったり、合図が遅い自動車が多いから	65.7	携帯電話を使用しながら運転する自動車が多いから	56.6	自動車のスピード違反が多いから	37.2	横断歩道以外の場所や歩行者横断禁止の場所で道路を横断する歩行者が多いから	37.0	自動車の信号無視が多いから	32.6
	親と子と孫 (73人)	右左折の合図をしなかったり、合図が遅い自動車が多いから	64.4	携帯電話を使用しながら運転する自動車が多いから	57.5	横断歩道以外の場所や歩行者横断禁止の場所で道路を横断する歩行者が多いから	47.9	自動車のスピード違反が多いから	32.9	自動車の信号無視が多いから	31.5



- 約7割が「合図をしなくて、合図が遅い」と回答し、半数以上が「携帯電話を使用しながら運転する自動車が多い」と回答しています。
- 年代別の第3位は、20歳代以下では「携帯電話を使用しながら運転する自動車・自転車が多い」、30歳～50歳代では「横断禁止場所を横断する歩行者が多い」、60歳代以上では「自動車の信号無視が多い」となっています。

問13

あなたが、交通事故防止対策として、警察に特に力を入れてもらいたいことは何ですか。(複数回答可)

※ 下表中、各順位右欄の数値の単位は、「%」です。

全体 (2,216人)	1位		2位		3位		4位		5位		
	信号機、道路標識・標示の整備	35.6	交通安全教育の推進	35.0	交通死亡事故発生箇所など交通危険箇所の情報提供	32.4	交通需要に見合った道路交通環境の整備	29.2	交通違反の取締りの強化	26.6	
	6位		7位		8位		9位		10位		
	暴走族対策の強化	23.5	テレビ・ラジオによる交通安全に関する広報啓発活動の推進	22.1	交通関係機関、運輸業界団体、一般の企業・事業所などに対する指導	17.9	法改正による運転免許取得条件や運転適性基準の見直し(厳しくする)	13.2	車の総量抑制など交通需要の抑制	6.1	
11位		12位									
その他	2.3	無回答	0.5								

男女別	1位		2位		3位		4位		5位	
	男性 (1,093人)	交通安全教育の推進	36.5	信号機、道路標識・標示の整備	34.3	交通死亡事故発生箇所など交通危険箇所の情報提供	28.7	交通需要に見合った道路交通環境の整備	27.4	交通違反の取締りの強化
女性 (1,123人)	信号機、道路標識・標示の整備	37.0	交通死亡事故発生箇所など交通危険箇所の情報提供	35.9	交通安全教育の推進	33.5	交通需要に見合った道路交通環境の整備	30.9	交通違反の取締りの強化	28.0

年代別	20歳未満 (260人)		20歳代 (354人)		30歳代 (326人)		40歳代 (361人)		50歳代 (334人)		60歳代 (369人)		70歳以上 (211人)							
	交通安全教育の推進	42.3	信号機、道路標識・標示の整備	33.1	交通死亡事故発生箇所など交通危険箇所の情報提供	28.8	交通違反の取締りの強化	28.1	テレビ・ラジオによる交通安全に関する広報啓発活動の推進	24.2	交通安全教育の推進	37.0	信号機、道路標識・標示の整備	31.9	交通死亡事故発生箇所など交通危険箇所の情報提供	29.9	交通違反の取締りの強化	26.3	暴走族対策の強化	24.6
	信号機、道路標識・標示の整備	40.8	交通死亡事故発生箇所など交通危険箇所の情報提供	38.3	交通安全教育の推進	32.8	交通需要に見合った道路交通環境の整備	29.1	交通違反の取締りの強化	27.3	交通安全教育の推進	40.4	交通安全教育の推進	35.0	交通需要に見合った道路交通環境の整備	34.4	交通死亡事故発生箇所など交通危険箇所の情報提供	34.1	交通違反の取締りの強化	27.2
	交通死亡事故発生箇所など交通危険箇所の情報提供	36.6	信号機、道路標識・標示の整備	34.6	交通需要に見合った道路交通環境の整備	33.0	交通安全教育の推進	24.4	交通違反の取締りの強化	24.4	信号機、道路標識・標示の整備	34.7	交通安全教育の推進	34.1	信号機、道路標識・標示の整備	33.1	テレビ・ラジオによる交通安全に関する広報啓発活動の推進	28.5	交通死亡事故発生箇所など交通危険箇所の情報提供	27.6
	交通安全教育の推進	45.5	信号機、道路標識・標示の整備	36.0	テレビ・ラジオによる交通安全に関する広報啓発活動の推進	31.8	交通死亡事故発生箇所など交通危険箇所の情報提供	30.8	交通需要に見合った道路交通環境の整備	30.3	信号機、道路標識・標示の整備	36.2	交通死亡事故発生箇所など交通危険箇所の情報提供	30.7	交通需要に見合った道路交通環境の整備	30.0	交通安全教育の推進	29.7	交通違反の取締りの強化	27.0
	交通安全教育の推進	35.8	信号機、道路標識・標示の整備	35.3	交通需要に見合った道路交通環境の整備	32.0	交通死亡事故発生箇所など交通危険箇所の情報提供	30.3	交通違反の取締りの強化	27.2	交通安全教育の推進	35.9	信号機、道路標識・標示の整備	35.2	交通死亡事故発生箇所など交通危険箇所の情報提供	33.9	交通需要に見合った道路交通環境の整備	27.3	交通違反の取締りの強化	26.1
	信号機、道路標識・標示の整備	39.3	交通安全教育の推進	36.2	交通死亡事故発生箇所など交通危険箇所の情報提供	30.6	交通需要に見合った道路交通環境の整備	29.6	交通違反の取締りの強化	25.0	信号機、道路標識・標示の整備	36.2	交通死亡事故発生箇所など交通危険箇所の情報提供	30.7	交通需要に見合った道路交通環境の整備	30.0	交通安全教育の推進	29.7	交通違反の取締りの強化	27.0

世帯別	ひとり暮らし (293人)		夫婦のみ (544人)		親と子 (1,150人)		親と子と孫 (196人)			
	信号機、道路標識・標示の整備	36.2	交通死亡事故発生箇所など交通危険箇所の情報提供	30.7	交通需要に見合った道路交通環境の整備	30.0	交通安全教育の推進	29.7	交通違反の取締りの強化	27.0
	交通安全教育の推進	35.8	信号機、道路標識・標示の整備	35.3	交通需要に見合った道路交通環境の整備	32.0	交通死亡事故発生箇所など交通危険箇所の情報提供	30.3	交通違反の取締りの強化	27.2
	交通安全教育の推進	35.9	信号機、道路標識・標示の整備	35.2	交通死亡事故発生箇所など交通危険箇所の情報提供	33.9	交通需要に見合った道路交通環境の整備	27.3	交通違反の取締りの強化	26.1
信号機、道路標識・標示の整備	39.3	交通安全教育の推進	36.2	交通死亡事故発生箇所など交通危険箇所の情報提供	30.6	交通需要に見合った道路交通環境の整備	29.6	交通違反の取締りの強化	25.0	



- 前回(平成26年)第3位だった「信号機、道路標識・表示の整備」が35.6%で第1位となっています。また前回(平成26年)第5位だった「交通安全教育の推進」が第2位となっています。
- 一方、前回(平成26年)第1位だった「暴走族対策の強化」が32.8%から9.3ポイント減少し第6位となっています。

問14

あなたは、夜間歩行中の事故防止に有効な反射材について、どのようなタイプのものであれば使いたいですか。(複数回答可)

※ 下表中、各順位右欄の数値の単位は、「%」です。

全体 (2,216人)	1位	2位	3位	4位	5位				
	リストバンド型の反射材	44.4	タスキ型の反射材	43.2	靴に貼るシールタイプの反射材	27.2	キーホルダー型の反射材	18.6	反射材が付いた帽子
	6位	7位	8位	9位	10位				
	プロスポーツのロゴ等が入った反射材	13.0	反射材が付いたバッグ	11.0	キャラクター等のイラストが入った反射材	10.6	その他	1.6	無回答

男女別		1位	2位	3位	4位	5位				
		男性 (1,093人)	タスキ型の反射材	45.9	リストバンド型の反射材	43.3	靴に貼るシールタイプの反射材	23.9	反射材が付いた帽子	18.8
女性 (1,123人)	リストバンド型の反射材	45.4	タスキ型の反射材	40.6	靴に貼るシールタイプの反射材	30.4	キーホルダー型の反射材	23.2	キャラクター等のイラストが入った反射材	15.9

年代別		1位	2位	3位	4位	5位				
		20歳未満 (260人)	リストバンド型の反射材	44.2	タスキ型の反射材	34.6	キーホルダー型の反射材	25.8	プロスポーツのロゴ等が入った反射材	21.5
20歳代 (354人)	リストバンド型の反射材	41.8	タスキ型の反射材	33.6	キーホルダー型の反射材	27.1	プロスポーツのロゴ等が入った反射材	18.9	靴に貼るシールタイプの反射材	17.5
30歳代 (326人)	リストバンド型の反射材	41.4	タスキ型の反射材	40.2	キーホルダー型の反射材	24.2	靴に貼るシールタイプの反射材	22.1	キャラクター等のイラストが入った反射材	18.1
40歳代 (361人)	リストバンド型の反射材	43.8	タスキ型の反射材	40.2	靴に貼るシールタイプの反射材	27.1	キーホルダー型の反射材	21.3	プロスポーツのロゴ等が入った反射材	15.0
50歳代 (334人)	リストバンド型の反射材	52.7	タスキ型の反射材	47.6	靴に貼るシールタイプの反射材	31.4	反射材が付いた帽子	20.7	反射材が付いたバッグ	15.6
60歳代 (369人)	タスキ型の反射材	52.6	リストバンド型の反射材	43.1	靴に貼るシールタイプの反射材	38.8	反射材が付いた帽子	26.3	反射材が付いたバッグ	11.1
70歳以上 (211人)	タスキ型の反射材	56.4	リストバンド型の反射材	43.6	反射材が付いた帽子	38.9	靴に貼るシールタイプの反射材	38.4	反射材が付いたバッグ	9.5

世帯別		1位	2位	3位	4位	5位				
		ひとり暮らし (293人)	タスキ型の反射材	39.2	リストバンド型の反射材	38.2	靴に貼るシールタイプの反射材	20.5	キーホルダー型の反射材	20.1
夫婦のみ (544人)	タスキ型の反射材	49.8	リストバンド型の反射材	44.7	靴に貼るシールタイプの反射材	33.8	反射材が付いた帽子	24.3	反射材が付いたバッグ	11.6
親と子 (1,150人)	リストバンド型の反射材	45.6	タスキ型の反射材	41.4	靴に貼るシールタイプの反射材	27.0	キーホルダー型の反射材	22.3	プロスポーツのロゴ等が入った反射材	14.8
親と子と孫 (196人)	リストバンド型の反射材	45.9	タスキ型の反射材	40.3	靴に貼るシールタイプの反射材	21.9	キーホルダー型の反射材	17.9	反射材が付いた帽子	15.3



【この設問は平成29年新規設問】

- 4割以上が「リストバンド型」と「タスキ型」の反射材を使いたと思っています。
- 50歳代以下では「リストバンド型」、60歳以上では「タスキ型」が第1位となっています。
- 30歳代以下では「キーホルダー型の反射材」、40～60歳代では「靴に貼るシールタイプの反射材」が第3位に入っています。

問15

あなたは、大規模震災などの災害が発生したときに、警察に何を期待しますか。(複数回答可)

※ 下表中、各順位右欄の数値の単位は、「%」です。

全体 (2,216人)	1位	2位	3位	4位	5位				
	安全な場所への避難誘導	72.2	被災情報の収集・広報	55.7	犯罪の取締り	54.4	被災者の捜索・救助	49.8	交通整理・交通規制
	6位	7位	8位	9位	10位				
	避難場所などでの声掛けなどの被災者対策	34.7	わからない	2.6	特になし	1.1	その他	0.8	無回答

男女別	1位	2位	3位	4位	5位					
	男性 (1,093人)	安全な場所への避難誘導	67.0	犯罪の取締り	56.1	被災情報の収集・広報	54.1	被災者の捜索・救助	47.9	交通整理・交通規制
女性 (1,123人)	安全な場所への避難誘導	77.3	被災情報の収集・広報	57.3	犯罪の取締り	52.8	被災者の捜索・救助	51.6	交通整理・交通規制	50.0

年代別	1位	2位	3位	4位	5位						
	20歳未満 (260人)	安全な場所への避難誘導	69.2	被災情報の収集・広報	52.7	被災者の捜索・救助	47.3	犯罪の取締り	38.1	交通整理・交通規制	34.6
	20歳代 (354人)	安全な場所への避難誘導	75.4	被災情報の収集・広報	53.1	被災者の捜索・救助	49.7	犯罪の取締り	48.3	交通整理・交通規制	47.2
	30歳代 (326人)	安全な場所への避難誘導	73.3	被災情報の収集・広報	60.1	犯罪の取締り	59.8	交通整理・交通規制	55.2	被災者の捜索・救助	54.0
	40歳代 (361人)	安全な場所への避難誘導	71.5	犯罪の取締り	63.2	被災情報の収集・広報	56.0	交通整理・交通規制	51.0	被災者の捜索・救助	50.7
	50歳代 (334人)	安全な場所への避難誘導	76.9	犯罪の取締り	61.1	被災情報の収集・広報	58.1	交通整理・交通規制	53.6	被災者の捜索・救助	53.3
	60歳代 (369人)	安全な場所への避難誘導	69.6	犯罪の取締り	53.9	被災情報の収集・広報	53.1	交通整理・交通規制	47.7	被災者の捜索・救助	46.1
70歳以上 (211人)	安全な場所への避難誘導	66.8	被災情報の収集・広報	57.8	犯罪の取締り	52.1	被災者の捜索・救助	46.0	交通整理・交通規制	41.2	

世帯別	1位	2位	3位	4位	5位						
	ひとり暮らし (293人)	安全な場所への避難誘導	68.9	被災情報の収集・広報	52.2	犯罪の取締り	52.2	交通整理・交通規制	50.5	被災者の捜索・救助	44.7
	夫婦のみ (544人)	安全な場所への避難誘導	71.7	被災情報の収集・広報	55.9	犯罪の取締り	55.0	被災者の捜索・救助	48.9	交通整理・交通規制	45.4
	親と子 (1,150人)	安全な場所への避難誘導	73.1	被災情報の収集・広報	55.8	犯罪の取締り	55.0	被災者の捜索・救助	50.3	交通整理・交通規制	48.5
親と子と孫 (196人)	安全な場所への避難誘導	73.5	被災情報の収集・広報	57.7	被災者の捜索・救助	55.6	犯罪の取締り	51.5	交通整理・交通規制	48.5	



- 7割が「安全な場所への避難・誘導」と回答しています。
- 前回(平成26年)第5位だった「犯罪の取締り」が41.7%から12.7ポイント増加し第3位となっています。
- 前回(平成26年)第3位だった「交通整理・交通規制」は、2.8ポイント増加したものの第5位となっています。

問16

あなたは、テロを防止するため、どのようなことが効果的だと思いますか。(複数回答可)

※ 下表中、各順位右欄の数値の単位は、「%」です。

全体 (2,216人)	1位		2位		3位		4位		5位		
	テロ組織に関する情報収集	51.9	テロリストを入国させないための対策	50.2	テロリストの摘発	41.9	爆発物や毒物などテロに使用されそうな物の管理や販売に関する指導	38.1	テロの防止に役立つ情報発信	37.9	
	6位		7位		8位		9位		10位		
	警察による警戒警備の強化	37.1	テロの標的となりうる施設等の管理者による自主警備及び防犯対策の強化	25.3	外国人と県民との共生を促進させる取組	15.5	わからない	8.8	特にない	2.3	
11位		12位									
その他	0.8	無回答	0.8								

男女別	1位		2位		3位		4位		5位	
	男性 (1,093人)	テロ組織に関する情報収集	54.0	テロリストを入国させないための対策	49.8	テロリストの摘発	45.2	テロの防止に役立つ情報発信	37.6	警察による警戒警備の強化
女性 (1,123人)	テロリストを入国させないための対策	50.6	テロ組織に関する情報収集	49.9	爆発物や毒物などテロに使用されそうな物の管理や販売に関する指導	41.1	警察による警戒警備の強化	38.8	テロリストの摘発	38.7

年代別	1位		2位		3位		4位		5位		
	20歳未満 (260人)	テロ組織に関する情報収集	56.2	テロリストを入国させないための対策	51.2	テロリストの摘発	36.9	爆発物や毒物などテロに使用されそうな物の管理や販売に関する指導	35.4	テロの防止に役立つ情報発信	34.6
	20歳代 (354人)	テロリストを入国させないための対策	51.4	テロ組織に関する情報収集	47.2	警察による警戒警備の強化	36.7	テロリストの摘発	34.2	テロの防止に役立つ情報発信	31.9
	30歳代 (326人)	テロ組織に関する情報収集	53.1	テロリストを入国させないための対策	51.5	テロリストの摘発	43.9	テロの防止に役立つ情報発信	42.6	爆発物や毒物などテロに使用されそうな物の管理や販売に関する指導	39.9
	40歳代 (361人)	テロリストを入国させないための対策	54.3	テロ組織に関する情報収集	52.1	テロリストの摘発	46.5	警察による警戒警備の強化	41.3	テロの防止に役立つ情報発信	39.6
	50歳代 (334人)	テロリストを入国させないための対策	53.6	テロ組織に関する情報収集	52.7	テロリストの摘発	48.8	爆発物や毒物などテロに使用されそうな物の管理や販売に関する指導	45.2	テロの防止に役立つ情報発信	41.9
	60歳代 (369人)	テロ組織に関する情報収集	50.4	テロリストを入国させないための対策	44.2	テロリストの摘発	42.0	テロの防止に役立つ情報発信	39.3	爆発物や毒物などテロに使用されそうな物の管理や販売に関する指導	37.9
	70歳以上 (211人)	テロ組織に関する情報収集	53.6	テロリストを入国させないための対策	42.7	テロリストの摘発	39.3	爆発物や毒物などテロに使用されそうな物の管理や販売に関する指導	36.5	警察による警戒警備の強化	33.6

世帯別	1位		2位		3位		4位		5位		
	ひとり暮らし (293人)	テロリストを入国させないための対策	46.1	テロ組織に関する情報収集	45.1	テロリストの摘発	42.0	爆発物や毒物などテロに使用されそうな物の管理や販売に関する指導	35.8	警察による警戒警備の強化	35.8
	夫婦のみ (544人)	テロ組織に関する情報収集	53.1	テロリストを入国させないための対策	49.4	テロリストの摘発	43.8	テロの防止に役立つ情報発信	41.0	爆発物や毒物などテロに使用されそうな物の管理や販売に関する指導	39.9
	親と子 (1,150人)	テロ組織に関する情報収集	53.5	テロリストを入国させないための対策	51.7	テロリストの摘発	41.6	テロの防止に役立つ情報発信	38.1	爆発物や毒物などテロに使用されそうな物の管理や販売に関する指導	37.8
親と子と孫 (196人)	テロ組織に関する情報収集	49.0	テロリストを入国させないための対策	48.5	テロリストの摘発	39.8	爆発物や毒物などテロに使用されそうな物の管理や販売に関する指導	36.2	テロの防止に役立つ情報発信	34.7	



【この設問は平成29年新規設問】

- 半数が「テロ組織に関する情報収集」と「テロリストを入国させないための対策」が効果的と思っています。
- 男女別、年代別、世帯別の全てにおいて「テロ組織に関する情報収集」と「テロリストを入国させないための対策」が第1、2位を占めています。



このアンケートに関するお問い合わせは、下記までご連絡下さい。

担当:大分県警察本部警務部警務課(企画係)

電話 097-536-2131(内線 2622~2624)



大 分 県 警 察